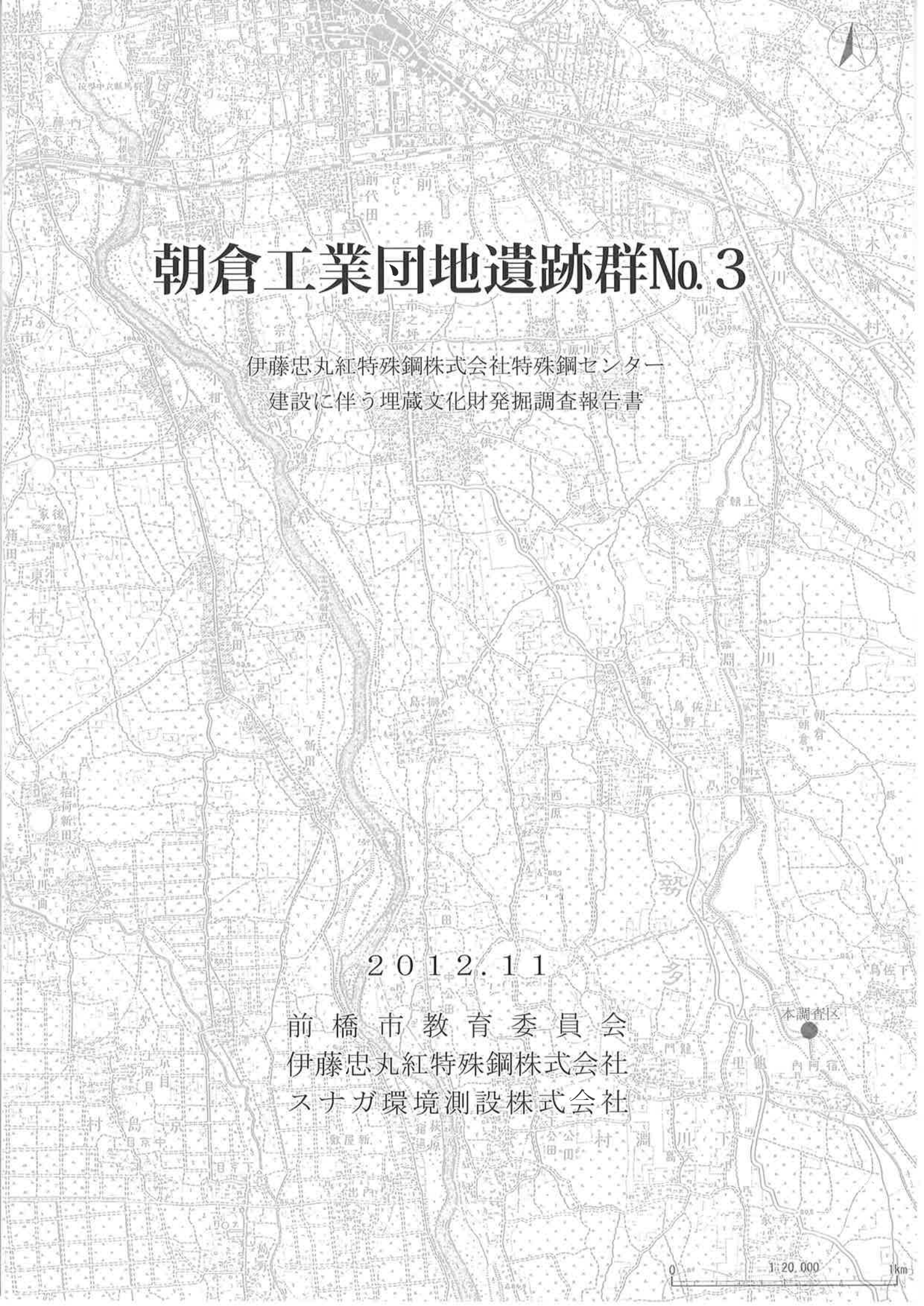
朝倉工業団地遺跡群No. 3

伊藤忠丸紅特殊鋼株式会社特殊鋼センター
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2012.11

前橋市教育委員会
伊藤忠丸紅特殊鋼株式会社
スナガ環境測設株式会社



調査区全景（南から）

W-１・２号溝跡〈４トレンチ〉（南東から）

例　　言

1．本書は、伊藤忠丸紅特殊鋼株式会社特殊鋼センター建設に伴って実施した朝倉工業団地遺跡群No.３の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．遺跡の所在地　前橋市下佐鳥町17-2・201-5・223-2・228-1・279-2・1083-1・1093-3・1094-4。
3．調査は、前橋市教育委員会の指導のもとに委託者、伊藤忠丸紅特殊鋼株式会社（代表取締役　今西清裕）の委託を受け、民間調査機関　スナガ環境測設株式会社（代表取締役　須永眞弘）が実施した。
調査担当者　　板垣 宏（スナガ環境測設株式会社）
4．発掘調査期間　平成24年７月17日～平成24年８月27日
5．整理期間　　平成24年８月20日～平成24年10月26日
6．調査面積　　713㎡
7．出土遺物、調査の記録（図面・写真等）は前橋市教育委員会が保管する。
8．測量・調査計画……須永眞弘、調査助言……金子正人、調査担当……板垣 宏、測量調査……板垣 宏・荻野博巳・瀧澤典雄・矢島義秋・山本恵美子・高林 操・今川八千代、写真撮影……板垣 宏、安全管理・重機オペレーター……金子正人、作業事務……須永 豊が担当した。
9．本書は前橋市教育委員会の指導のもとに、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、執筆は、Ⅰを福田貫之（前橋市教育委員会）が、Ⅱ～Ⅵ・版組を瀧澤典雄、編集・校正……須永眞弘・金子正人、実測図整理・トレース・遺物撮影・作図表他……板垣 宏・瀧澤典雄、遺物洗浄・注記……須永薫子、遺物実測・整理……佐々木 智恵子、写真整理・コンピュータ入力等……岡田弥生、内業事務……須永 豊が担当した。
10．発掘調査に参加した方々は、山本良政　芳川孝夫　西谷徳雄　田辺賢一　飯島正孝　小林隆一　大浜利幸　都丸仲一　高橋勝夫　大島良江（順不同）である。

凡　　例

1．遺跡の番号は00805、略称は24Ｇ76である。
2．座標値は世界測地系（国家座標第Ⅸ系）を使用し、北方位は座標北である。
3．遺構名の略称は溝跡……W、ピット……Ｐである。
4．遺物実測図のスクリーントーンは施釉を表す。
5．土層注記及び本文に用いたテフラの略称は、天明３年（西暦1783年）降下の浅間山給源テフラをAs-A、天仁元年（西暦1108年）降下の浅間山給源テフラをAs-B、６世紀中葉降下の榛名山給源テフラをHr-FP、６世紀初頭降下の榛名山給源テフラをHr-FA、４世紀降下の浅間山給源テフラをAs-Cとして用いた。
6．本書中で数値に（　）を付したものは検出値を、［　］を付したものは推定値を表す。
7．挿図に明治41年迅速図・国土地理院発行の１／25,000地形図や前橋市都市計画図の一部を改変して使用し、それ以外の引用は挿図中に明示した。
8．水田遺構の面積は、平面図をもとに座標面積計算により算出した。
9．土層注記の土色名及び土器類の色調名は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所　色票監修　2000）によった。
10．層序は『朝倉工業団地遺跡群』（2012）に準拠した。ただしⅧ層は、本調査区で水田跡が確認できなかったためⅧ'層とした。
11．本書作成につき利用した文献は、紙数の都合により、Ⅵの参考文献として一括掲載し、報告書は一部を除き明示できなかった。ご寛恕賜りたい。

目　　次

口　　絵

例　　言
凡　　例

目　　次
挿図目次
表 目 次
写真図版目次

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　遺跡の地理的環境と歴史的環境 …… 1
　1　遺跡の地理的環境 …… 1
　2　遺跡の歴史的環境 …… 2
Ⅲ　調査の方針と経過 …… 4
　1　調査の方針 …… 4
　2　調査の経過 …… 4
Ⅳ　層　　序 …… 4
Ⅴ　検出された遺構と遺物 …… 6
　1　概　　要 …… 6
　2　Hr-FA 層下の水田跡 …… 6
　3　溝　　跡 …… 6
　4　ピ ッ ト …… 7
　5　焼 夷 弾 …… 7
　6　遺　　物 …… 7
Ⅵ　ま　と　め …… 8
　1　Hr-FA 層下の水田跡について …… 8
　2　古代以前の溝跡について …… 8
　3　中世以降の溝跡について …… 8
　4　焼夷弾について …… 9

写真図版
抄　　録

挿図目次

第１図　遺跡周辺の地形分類図……1
第２図　周辺遺跡・文化財地図……3
第３図　基本土層図……4
第４図　調査区位置図……5
第５図　調査区全体図……10
第６図　遺構実測図（１）……11
第７図　遺構実測図（２）……12
第８図　遺構実測図（３）……13
第９図　遺構実測図（４）……14
第10図　遺構実測図（５）……15
第11図　遺構断面図（１）……16
第12図　遺構断面図（２）……17
第13図　昭和43年度版の都市計画図と本調査区の位置……19
第14図　出土遺物実測図……20

表　目　次

第１表　Hr-FA 層下水田跡計測表　……18
第２表　溝跡計測表……19
第３表　出土遺物観察表……20

写真図版目次

口絵
調査区全景（南から）
Ｗ-１・２号溝跡〈４トレンチ〉（南東から）

図版１〈１・２・５トレンチ：遺構〉
１トレンチ俯瞰（西から）
１トレンチ東側水田跡（西から）
Ｗ-19・18号溝跡（南東から）
２トレンチ中央部水田跡（西から）
２トレンチ東側水田跡（西から）
Ｗ-９・16号溝跡〈２トレンチ〉（南から）
Ｐ-１ピット遺物出土状況（北西から）
Ｐ-１ピット全景（北西から）

図版２〈２・５・６・７トレンチ：遺構〉
２・５・６・７トレンチ俯瞰（南から）
２トレンチ西側・７トレンチ俯瞰（南から）
Ｗ-２・10・11・12・13号溝跡〈２トレンチ〉（南東から）
Ｗ-11号溝跡〈２トレンチ〉（南西から）
Ｗ-11号溝跡〈２・７トレンチ〉（北から）
Ｗ-15・14号溝跡（南から）
Ｗ-17号溝跡〈２トレンチ〉（南東から）
Ｗ-20号溝跡〈２トレンチ〉（南東から）

図版３〈３トレンチ：遺構〉
３トレンチ俯瞰（西から）
３トレンチ（東から）
３トレンチ水田跡（東から）
Ｗ-２号溝跡〈３トレンチ〉（南から）
Ｗ-４号溝跡〈３トレンチ〉（北から）
Ｗ-５号溝跡〈３トレンチ〉（南から）
Ｗ-８号溝跡〈３トレンチ〉（南から）
３トレンチ北壁（南から）

図版４〈４・８トレンチ：遺構〉
４・８トレンチ俯瞰（南から）
Ｗ-１・２号溝跡〈４トレンチ〉（南東から）
Ｗ-１・２・５・６号溝跡〈４トレンチ〉（東から）
Ｗ-５号溝跡〈４トレンチ〉（南から）
Ｗ-６号溝跡（西から）
Ｗ-７号溝跡（西から）
Ｗ-３・４号溝跡〈８トレンチ〉（南から）
Ｗ-９号溝跡〈８トレンチ〉（南東から）

図版５〈遺物・焼夷弾〉
遺物１　2　3　4　5　6　7　8　9　10　11　12　13　14　15
焼夷弾検出状況〈３トレンチ〉（北から）
焼夷弾検出状況〈３トレンチ〉（上から）

Ⅰ　調査に至る経緯

朝倉工業団地は平成23年１月の試掘調査により遺跡地であることが確認されている。その後、道路箇所については記録保存を目的とした発掘調査を実施した。各々の区画内については進出する各社と協議を行ない現状保存が不可能な箇所については発掘調査を行ない記録保存の措置を執ることとなった。

平成24年１月18日、伊藤忠丸紅特殊鋼株式会社より埋蔵文化財の取り扱いについて問合せがあった。以降、調査期間や調査の方法について数回に亘り協議を行なった。その結果、現状保存が不可能な箇所については発掘調査を行ない記録保存の措置を執ることで合意を得た。発掘調査については、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、民間調査組織が行なうこととなった。同年７月12日付けで伊藤忠丸紅特殊鋼株式会社と民間調査組織であるスナガ環境測設株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、同年７月12日付けで伊藤忠丸紅特殊鋼株式会社、スナガ環境測設株式会社、前橋市教育委員会の間で発掘調査に関する協定書が締結され、同年７月17日から現地調査を開始した。

Ⅱ　遺跡の地理的環境と歴史的環境

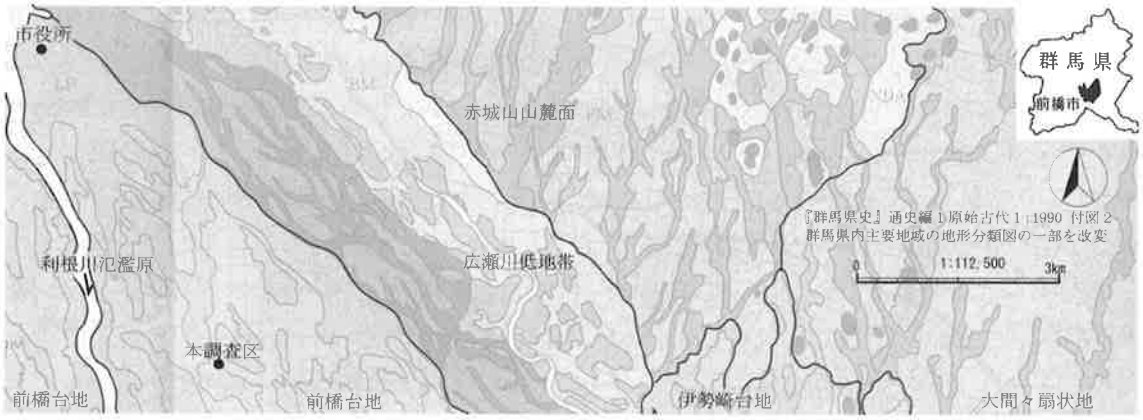
１　遺跡の地理的環境（第１図）

前橋市は県内の地域区分で中毛地域にあたり、34万人が暮らす、県庁の所在する中核市である。

舞鶴の形に擬せられる群馬県のほぼ中央に位置し、市街地の東方から北方そして西方には、赤城山・榛名山をはじめ多くの山々が望める。南方は広大な関東平野である。

本市の地形は、赤城山の山頂部から山麓部に至る赤城山山麓面、旧利根川流路が形成した広瀬川低地帯、関東平野の北西端に位置する前橋台地に区分される。この台地には一級河川利根川が南流する。本調査区から西に約２㎞で利根川河川敷、東へ約３㎞で広瀬川低地帯に至る。中心市街地は前橋台地北端から広瀬川低地帯に位置する。利根川が変流した時期は諸説あり、『鶏足寺世代血脈』や『赤城神社年代記』、『喜連川判鑑』、『新井村根元帳』など複数の文書で、応永34年（西暦1427年）に洪水の記述がみえ、これ以外も含め、中世末にこうした洪水のいずれかが、中小河川の流路を奪って瀬替したとされる。

本調査区は前橋市役所から南東へ約５㎞の下佐鳥町にあり、前橋台地を南流する端気川左岸に接する後背湿地に立地する。現在の端気川は、利根川分流の広瀬川から分かれ、本市下阿内町で利根川に合流する河川で、近世には水運に利用されていた。遺跡付近は水田や畑の中に農村集落が点在する地域であったが、交通網の整備により、開発や産業集積がなされ発展してゆく地域である。



第１図　遺跡周辺の地形分類図

2　遺跡の歴史的環境（第２図）

本遺跡群周辺の遺跡については、すでに『朝倉工業団地遺跡群』（2012）に詳述されており、本書では重複を避け、Hr-FA 降下前後の遺跡の概略と古代から中世の文化財を中心に記述する。

５世紀後半から６世紀前半の本地域では、東方に６世紀前半に築造された亀塚山古墳があり、帆立貝式古墳で埴輪を出土する。徳丸仲田・西田・横手早稲田・横手南川端・亀里平塚・公田池尻・公田東遺跡、南部拠点・西横手遺跡群など南方から西方にかけて Hr-FA 層下の水田跡や住居跡が確認されている。六供下堂木Ⅱ遺跡など北方にも５世紀後半以降の住居跡が発見された。巨視的に見れば本遺跡群の東方（北方にかけて）に首長墓域、南方から西方・北方に生産・集落跡という社会が想定できる。東方の首長墓域は広瀬古墳群と呼ばれ、前橋台地縁辺の広瀬川低地帯沿いに前期では八幡山古墳・前橋天神山古墳、後期では金冠塚古墳などの首長墓が見られるが、６世紀初頭を前後する時期の確実な古墳は少ない。西方の水田跡では４世紀代に遡る例が見られ、早くから開田されていたようである。

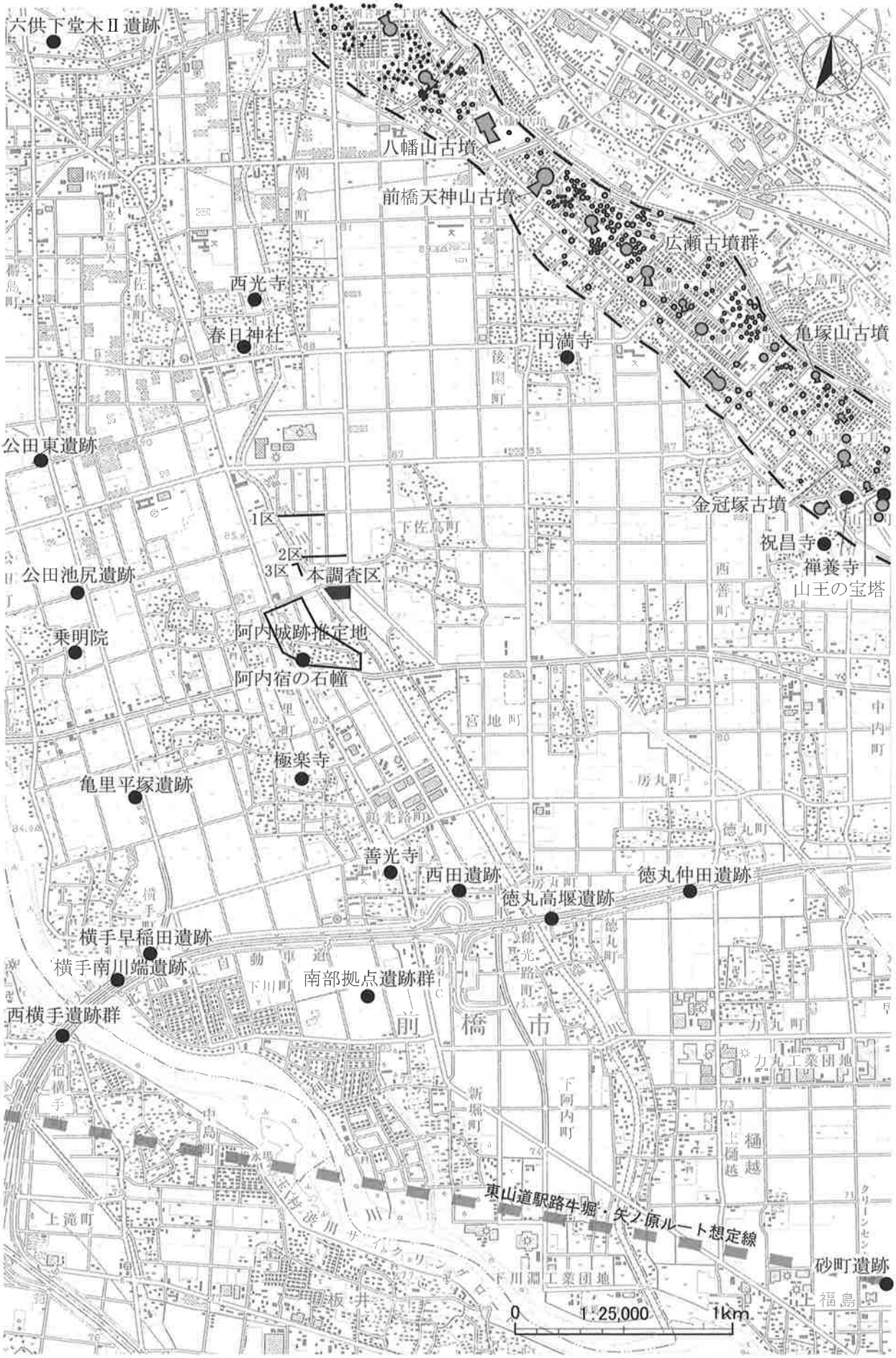
古代では、本遺跡群周辺が那波郡朝倉郷や田後郷に編成されたと考えられ、『日本書紀』大化二年（西暦646年）条の朝倉君はこの地域の豪族と見られる。この地域は条里制に伴う水田遺構も多く検出され、南部拠点遺跡群では大畦畔を確認している。８世紀前半までの東山道駅路は、前橋台地の南を東西に横断することが、玉村町砂町遺跡などで確認でき、その東南方の近接した遺跡からは官衙の可能性がある遺構を検出している。前橋は厩橋という地名の転訛とされ、古代の駅路や駅家が近在した可能性がある。

中世では、治承４年（西暦1180年）宇治川の合戦に参戦した藤姓那波氏が、郡名を負う武士団として知られ、後の戦国時代に関東管領上杉氏から武田信玄、後北条氏に属した那波氏は大江姓那波氏である。端気川右岸に那波氏の阿内城跡伝承地があり、長尾景春が五十子陣を攻めた際に上杉氏がこの城に退いたとされる。中近世城館跡は県教育委員会の調査で本地域に27箇所、隣接する玉村町に34箇所が登載され、善光寺、極楽寺、乗明院などの寺院に所在する環濠や、近年の発掘調査で確認された遺構も多い。

乗明院所在の阿弥陀三尊画像板碑は来迎像が線刻され、また廃覚動寺宝塔は永和四年（西暦1378年）という造立年が刻まれ、多宝塔と宝篋印塔の中間的な様相である。極楽寺の阿弥陀如来坐像は、胎内修理銘に正和五年（西暦1316年）の年紀と明円という僧の名があり、『法然上人絵伝』にある「上野国府の僧明圓」と同一人物と見られている。この『絵伝』には「蓮性」という小屋原（本市小屋原町）の僧の記述もある。善光寺は信濃善光寺と同名であり、無銘の阿弥陀一尊来迎画像線刻板碑や元応三年（西暦1321年）銘阿弥陀三尊種子板碑などが存在し、祝昌寺には鎌倉時代の銅造善光寺式阿弥陀三尊像を確認できる。阿内宿の石幢は逆修で明応七年（西暦1498年）の銘がある。西光寺は、阿弥陀如来像を本尊とするが、弥勒仏などを本尊とする法相宗寺院であったとの寺伝を有し、南都興福寺の荘園の存在を推定する説や、春日神社の近在を証左とする説がある。しかし神社は那波氏がはじめ藤姓であったことによる可能性もあり、史実は不明である。円満寺の石造阿弥陀三尊坐像は寄木造薬師如来坐像と共に鎌倉時代の作と見られる。山王の宝塔は市内最大級のもので室町時代初期と見られる。このように本地域では中世に阿弥陀浄土信仰の盛行が伺える。また、禅養寺などは中世以前に遡る可能性がある寺院である。

中世の鎌倉街道と呼ばれる道が県内各地に存在するが、本地域では不詳である。ただし、近世に福島道といわれた道は、前橋城から福島橋へ続く道で、『赤堀政綱軍忠状』に「福島橋切落警護」の記述があり、中世に遡る可能性がある。また、あずま道という中世路が台地上を通過していたと考えられている。

近代では、太平洋戦争で本市が昭和20年（西暦1945年）８月５日夜と14日深夜の２回にわたり大規模な空襲を受け、戦後、前橋市は、『戦災と復興』を発行して、今日にその被害状況を伝えている。なお14日という日は、詔勅（終戦）が14日付であり、夜にはポツダム宣言受諾の通告がなされて、降伏した日で、翌15日の玉音放送によって国民に敗戦が告知され、今日では15日が終戦記念日となっている。



第２図　周辺遺跡・文化財地図

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査の方針（第４図）

調査は伊藤忠丸紅特殊鋼株式会社特殊鋼センターの建設に伴うもので、調査区内の建物の基礎部分を中心にして、北から南へ１～４トレンチ、西から東へ５～８トレンチとして設定された調査委託箇所を、重機により表土掘削後、人力で遺構・遺物を確認し、精査の後、写真撮影・実測等の記録を行い、調査の完了後、重機により埋め戻すこととした。なお、調査区内の西側は、前橋市教育委員会の試掘調査によって、遺構が存在しないため、調査の対象外となっている。

水準点は８トレンチ北に、公共水準点に基づきBM＝84.500mを設置した。

写真は35㎜モノクロ・リバーサルフィルム装填カメラとデジタルカメラによって撮影した。

実測は平板測量とトータルステーション測量で平面図を作成した。基本的な縮尺は1/40である。断面図の縮尺は1/20である。遺物は流れ込みのものが多く、当初は付番して採取したが、遺構と関連しないものについては各グリッド及びトレンチ毎に一括で採取した。

2　調査の経過（第４図）

調査は前橋市教育委員会の指導・監督のもと、スナガ環境測設株式会社が実施した。平成24年７月14日に現場事務所の設置や、発掘機材及び資材の搬入を行い、平成24年７月17日より、発掘調査区の安全対策等を講じた上で、排土置き場等の事情によって、８トレンチの表土を重機で掘削した。その後は４・２・３・１・５・６・７の各トレンチを順次、掘削し、その進捗状況に合わせ遺構精査を行った。

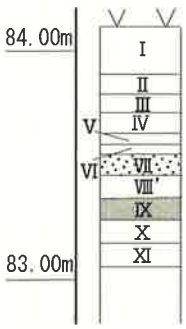
部分的ではあるが、As-B層が分布しているのが確認でき、As-B層下に遺構が存在する可能性を考慮して、注意深く精査したものの、溝跡の一部以外は水田跡等の遺構を確認できなかった。

このためHr-FA層・Hr-FP Ｆ１（洪水）層上面を確認面として重機によって掘削し、その後、鋤簾で遺構の確認作業を行った。Hr-FA層の残存状況は本調査区では非常に薄いため、遺構の確認は困難であった。Hr-FA層下水田跡は、Hr-FA層の僅かな残存によって遺構確認したもので、確認できなかった部分にも存在した可能性を否定できない。なお、多くの溝跡とピットを確認したのもこの面である。溝跡、ピットは移植ごてにより精査し、Hr-FA層下水田跡は畦畔下端の確認後、写真撮影・実測等の記録作成を行った。

重機により、埋め戻し作業を行い、発掘器材、資材、現場事務所の搬出を行い、平成24年８月17日現場における作業を全て終了した。

Ⅳ　層　　序

本調査区における、基本土層は以下の通りである。（第３図）



第３図　基本土層図

Ⅰ．現表土。As-A（φ0.3～0.5㎝）が混入。As-A（φ0.1～0.2㎝）が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
Ⅱ．旧表土。As-Aが混入。As-Bも少量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
Ⅲ．洪水層。水田土壌。As-AおよびAs-Bが混入。しまり、粘性とも普通。
Ⅳ．As-B混土層。鉄分の沈着が顕著。しまり、粘性とも普通。
Ⅴ．As-B混土層。多量のAs-Bが混入。鉄分の沈着が一部で認められる。しまり、粘性とも普通。
Ⅵ．As-B混土層。As-Bと黒褐色粘質土を含み、灰褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性、普通。
Ⅶ．As-B一次堆積層。しまり、粘性ともきわめて弱い。
Ⅷ'．Hr-FA・FPブロックが少量混入。しまりは普通、粘性は強い。
Ⅸ．Hr-FA・FPF１洪水層。多量のブロックを含む。しまりは普通、粘性は強い。
Ⅹ．As-C混土層。しまりは普通、粘性は強い。
Ⅺ．粘性土。鉄分の沈着が一部で認められる。しまりは普通、粘性は強い。

5トレンチ
6トレンチ
7トレンチ
8トレンチ
本調査区
1トレンチ
2トレンチ
3トレンチ
4トレンチ
亀里町
下佐鳥町
端矢川
阿内宿
県道 前橋 玉村線
県道 高崎 駒形線
0
1:2,500
100m

第４図　調査区位置図

Ⅴ　検出された遺構と遺物

1　概　　要（第５図）

本調査区からはHr-FA層下水田跡56区画と溝20条、ピット１基を検出した。なお、遺構に伴う可能性がある遺物はＰ－１ピットで検出した遺物のみである。以下に各遺構毎の調査所見を列記する。

2　Hr-FA層下の水田跡（第５・６・７・８・９図　第１表　図版１・２・３）

位置　１・２・３・７トレンチ（X114～127，Y160～170）　**重複**　Ｗ－２・４・５・９・10・11・12・13・16号溝跡が水田面を掘削している。　**残存状況**　悪い。　**地形**　北西～南東に緩傾斜。　**区画**　(56区画)。　**畦畔**　下端のみ確認。　**水口**　確認できない。　**水田の状態**　不明瞭。　**遺物**　遺構に伴う遺物はない。　**備考**　極小区画水田（小区画水田またはミニ水田とも呼ばれる）の形態であり、北西方向から南東方向が長手になる傾向がある。これは傾斜方向に一致して設置された水田区画の形成過程に起因すると考えられる。ただし一部にランダムな状況も検出され、必ずしも規格性をもっているとはいえない。調査区の西と東では遺構が確認できなかった。各計測値は表にした。

3　溝　　跡（第５・６・７・８・９・10・11・12・13図　第２表　図版１・２・３・４）

溝跡については、番号順に記述し、各計測値は表にした。

Ｗ－１号溝跡　４トレンチで検出した。調査範囲外でＷ－２号溝跡と重複する可能性があり、傾斜に斜交している。断面形は浅い「U」字状を呈す。覆土にAs-Bを多量に含み、時期は中世以降と考える。

Ｗ－２号溝跡　２・３・４トレンチで検出した。調査範囲外でＷ－１号溝跡と重複する可能性があり、ほぼ傾斜に直交する。断面形は浅い皿状を呈す。覆土にAs-B層があり、時期は西暦1108年以前と考える。

Ｗ－３号溝跡　８トレンチで検出した。ほぼ傾斜に直交する。断面形は浅い皿状を呈す。覆土にAs-Bを多量に含み時期は中世以降と考えるが、新旧関係によりＷ－４号溝跡よりは古い。

Ｗ－４号溝跡　８トレンチで検出した。。ほぼ傾斜に直交する。断面形は浅い皿状を呈す。覆土にAs-Bを多量に含み時期は中世以降と考えるが、新旧関係によりＷ－３号溝跡よりは新しい。

Ｗ－５号溝跡　３・４トレンチで検出した。Ｗ－６号溝跡と重複する。ほぼ傾斜に直交する。断面形は浅い皿状を呈す。覆土にAs-B層を多量に含み、時期は中世以降と考える。

Ｗ－６号溝跡　４トレンチで検出した。Ｗ－１・２・５号溝跡と重複する。ほぼ東から西に走向する。断面形は浅い皿状を呈す。覆土はHr-FA層・Hr-FP Ｆ１（洪水）層で、時期は古墳時代と考える。

Ｗ－７号溝跡　４トレンチで検出した。ほぼ東から西に走向する。断面形は少し角張った「U」字状を呈す。覆土はHr-FA層・Hr-FP Ｆ１（洪水）層で、時期は古墳時代と考える。

Ｗ－８号溝跡　３トレンチで検出した。ほぼ傾斜に直交する。断面形は浅い「U」字状を呈す。遺構はHr-FA層・Hr-FP Ｆ１（洪水）層を掘り込んでおり、覆土にAs-B層があり、時期は西暦1108年以前と考える。

Ｗ－９号溝跡　２・８トレンチで検出した。ほぼ傾斜に直交する。断面形は浅い皿状を呈す。Ｗ－16号溝跡が分岐する。覆土にビニールを含み、時期は近現代以前と考える。

Ｗ－10号溝跡　２・７トレンチで検出した。ほぼ傾斜に直交する。断面形は浅い「U」字状を呈す。覆土にAs-Bを多量に含み、時期は中世以降と考える。

Ｗ－11号溝跡　２・７トレンチで検出した。Ｗ－２・12・13・18号溝跡と重複する。傾斜に並行する辺と直交する辺があり、平面形は「L」字状だが、断面形が逆台形状と浅く角張った「U」字状であり、２本の溝跡になる可能性がある。覆土にAs-Bや黄褐色土ブロックを含み、時期は中世以降と考える。

W－12号溝跡　２トレンチで検出した。W－11号溝跡と重複する。ほぼ南北に走向する。断面形は浅い「U」字状を呈す。新旧関係によりW－11号溝跡よりは古く、時期は古代と考える。

W－13号溝跡　２・７トレンチで検出した。W－11号溝跡と重複する。ほぼ南北に走向する。断面形は浅い「U」字状を呈す。新旧関係によりW－11号溝跡より古く、覆土にAs-Bを含まず、時期は古代と考える。

W－14号溝跡　２・６トレンチで検出した。ほぼ傾斜に並行する。断面形は浅い皿状を呈す。覆土に黄褐色土ブロックを含み、時期は中世以降と考える。

W－15号溝跡　２トレンチで検出した。ほぼ傾斜に直交する。断面形は浅い皿状を呈す。覆土に黄褐色土ブロックを含み、時期は中世以降と考える。

W－16号溝跡　２トレンチで検出した。W－９号溝跡から分岐する。ほぼ傾斜に並行する。断面形は浅い皿状を呈す。覆土にビニール含み，時期は近現代以前と考える。

W－17号溝跡　１・２・５トレンチで検出した。ほぼ傾斜に直交する。断面形は浅い「U」字状を呈す。覆土にAs-Bを含み、時期は中世以降と考える。

W－18号溝跡　１・２・５トレンチで検出した。ただし、２トレンチではその痕跡の検出に止まる。W－19号溝跡と重複する。ほぼ傾斜に直交する。断面形は浅い皿状を呈す。覆土の状況から時期は中世以降と考える。

W－19号溝跡　１・５トレンチで検出した。W－18号溝跡と重複する。ほぼ傾斜に直交する。断面形は浅い皿状を呈す。新旧関係によりW－18号溝跡より古く、覆土にAs-Bを含まず、時期は古代と考える。

W－20号溝跡　２・３トレンチで検出した。ほぼ傾斜に直交する。断面形は浅い皿状を呈す。覆土はHr-FA層・Hr-FP Ｆ１（洪水）層で、時期は古墳時代と考える。

４　ピ ッ ト（第５・７図　図版１）

本調査区から検出のピットは１基である。

Ｐ－１　位置　２トレンチ（X114，Y163）　**重複**　なし　**残存状況**　良好　**地形**　北西～南東に緩傾斜。**規模**　長さ37cm、幅24cm、深さ（10cm）　**遺物**　土師器高坏　**時期**　古墳時代と考える。

５　焼 夷 弾（第５・９図　図版５）

３トレンチより焼夷弾を１本検出したので、本市近代史の資料として触れておく。

３トレンチ東端部（X127，Y175）の南壁付近で、Hr-FA層上面まで掘削途中に鉄片を検出し、多角形で筒状のものが深く埋まっている状態が認められた。焼夷弾の可能性が高いと判断し掘削を続けると、Hr-FA層下水田跡（水田番号56）を貫通していた。現地表から弾頭部までは深さ103cmである。弾頭部を検出した標高は83.07mであり、ほぼ垂直に地中に刺さった状況であった。検出された焼夷弾は計測値が約７cm角の六角形で、長さ（35）cmの筒状鉄製品であり、全体は錆化して明赤褐色になっていた。信管部分を確認でき、弾頭部が良好に残存していた。信管の直径は約2.5cmで白色に錆化している。尾部については耕作等により欠損したようで検出していない。本焼夷弾は不発弾である可能性が高く、M69ナパーム焼夷弾（Ｅ46集束焼夷弾）の弾体の一部と思われる。

６　遺　　物（第14図　第３表　図版５）

本調査区から出土した遺物は、概ね古墳時代の土師器細片が多く、古代以降の灰釉陶器等が混じっていた。図示したものは15点で、各計測値等は表にした。

Ⅵ まとめ

1　Hr-FA 層下の水田跡について

Hr-FA 層下で検出した水田跡は、いわゆる極小区画水田で、概ね北西方向から南東方向に向かう傾斜の等高線に直交する縦畦畔を形成した後に横畦畔の形成が看取でき、これは「開田型小区画水田」と呼ばれるタイプに相当するが、一部に上述とは異なる水田区画もあった。水口や畦畔上端は Hr-FA 層が非常に薄く確認できなかった。本遺跡群№１の２区で極小区画水田跡を検出し、畦畔の方向性や検出状況が類似しており。本調査区から北側に水田跡が広がると考えられる。

Hr-FA は初夏に降下したとされており、本調査区の残存状況が悪い水田跡は、田起こし前で風化した畦畔のために明瞭でなかった可能性があり、資料のさらなる蓄積が求められよう。

2　古代以前の溝跡について

覆土等から３条の溝跡を古墳時代、５条の溝跡を古代と判断した。

古墳時代の溝跡で、傾斜に直交するのはW－20号溝跡のみで、W－６・７号溝跡で検出した部分は、東西方向に近い溝跡である。今回の調査ではW－６・７号溝跡の南側に水田跡遺構を確認できなかったが、残存状況が悪いので、存在の有無には言及できない。

古代の溝跡はW－２・８・12・13・19号溝跡である。ほぼ傾斜に直交するが、古代の条里制は、本遺跡群の１・２区で検出の As-B 層下水田跡や、周辺地域で検出の条里制水田跡など、ほぼ東西南北を指向しており、これらとどのような関係にあるのか今回の調査からは判断できなかった。

3　中世以降の溝跡について

本調査区から検出の10条の溝跡は、遺物が出土せず、覆土の状態から中世のものと判断した。

この中でW－11号溝跡は「L」字状の平面形に断面形は北辺が緩い逆台形状、東辺は「U」字状の構造で、全体像は不明であるが本調査区では比較的大きい溝跡である。

中近世溝跡として知られる遺構では、慶長年間掘削という環濠屋敷跡に隣接して寺院跡や周辺に中世古墓群を検出した本市富田町の富田遺跡群、環濠集落から一向宗寺内町へ変遷した奈良県橿原市の今井町、館跡の一部に安養寺の存在が想定される太田市の安養寺森西遺跡、館跡が寺院に変遷した太田市の反町館跡、環濠屋敷を連結したとされる阿内城跡推定地などの環濠や、赤城山南麓に掘削された「女堀」などの灌漑用水があるが、いずれもW－11号溝跡より規模が大きな溝跡で一概に比較できない。

環濠屋敷について『前橋市史』第１巻によれば、灌漑用水、渇水時の飲料水、堆積する泥の肥料化、生息する生物の食料化という防禦以外の目的を記し、戦国時代以前に形成の可能性を指摘しており、発掘調査された遺構は中世から近世に至るものまで様々で矛盾しないが、W -11号溝跡がそうした環濠になるのか不明である。ただし、W -11号溝跡は阿内城跡推定地からは艮（うしとら）の方角に当たり、蛇行する端気川の対岸に位置し、付近に大角という小字がある。どちらも時期が明確にできず検討が難しいため、今回は地理的関係の指摘に止めたい。W -11号溝跡の北辺は等高線に並行しており、湛水機能を灌漑用水に利用できそうであるが、これも全体像が明らかでない現状では検討が難しい。

本遺跡群№１の３区で中世のW -36号溝跡が検出され、W -11号溝跡に似ていると思われる。

今回は明確にできないので、周辺地域での環濠跡・溝跡遺構を検討してW -11号溝跡を再考してみたい。

W－９号溝跡は、都市計画図にある溝が近接しており、この溝に関係する可能性があり、ビニールの混入と総合すれば近現代以前と判断できるが、初削の時期は不明である。（第13図参照）

4　焼夷弾について

ナフサ・パーム油・金属石鹸の混合物をゼリー状にし、約７cm角の六角形・長さ約50cmの筒状弾体に充填したM69ナパーム焼夷弾を32発または48発を一個に束ねたものがＥ46集束焼夷弾で、Ｂ-29、１機に24個登載した。他にマグネシウムやアルミニウムと酸化鉄を混合したエレクトロン焼夷弾（M50マグネシウム焼夷弾など）、ガソリンを使用したM47膠化ガソリン焼夷弾（AN-M47A）などがある。

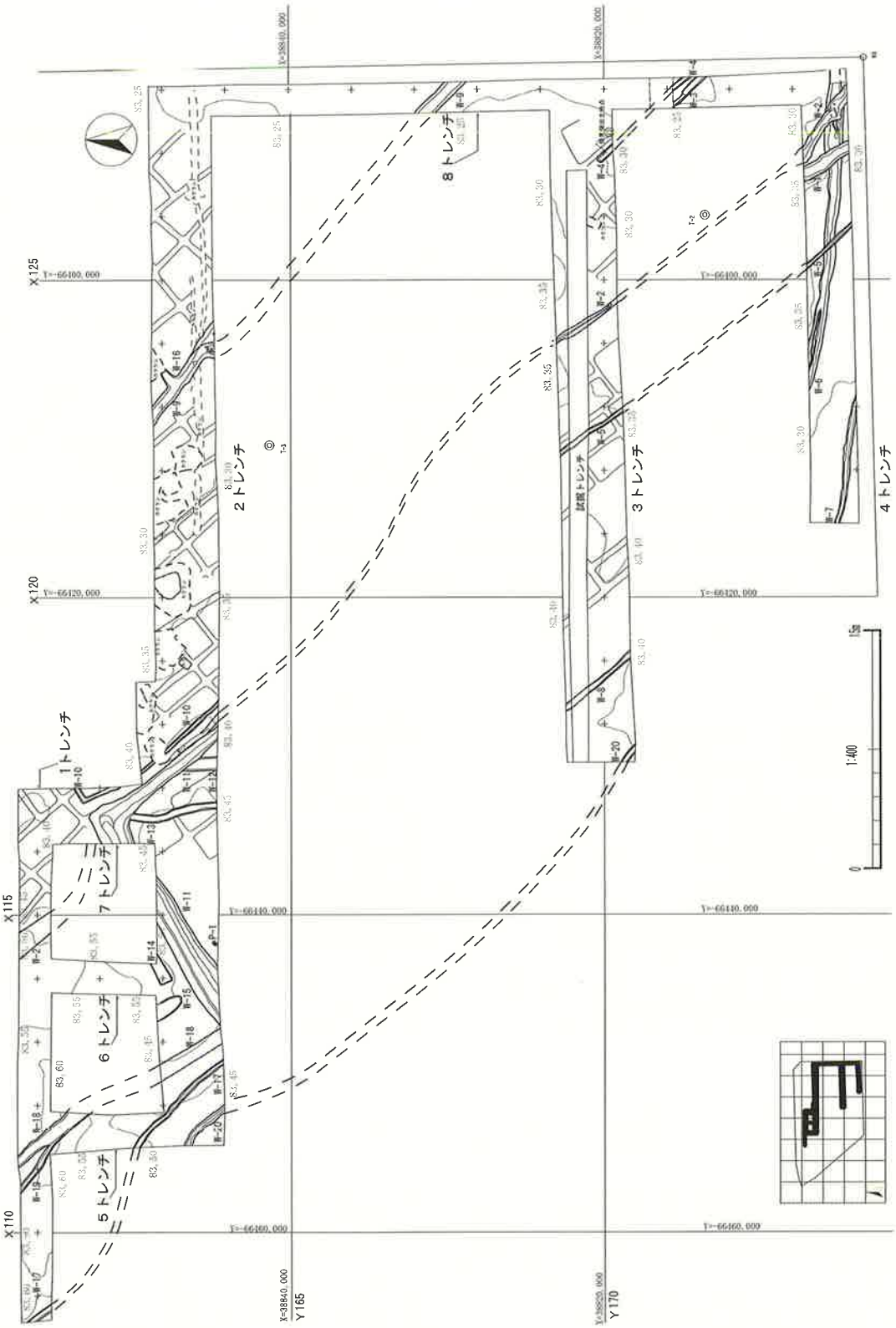
投下されたＥ46集束焼夷弾は、上空で集束バンドが外れ、各弾体信管が点火し、着地して炸薬が爆発し、焼夷剤が飛散し、可燃物に付着して燃焼するもので、日本の空襲に使用された主な弾薬のひとつである。

本市空襲の概略は、昭和20年（西暦1945年）８月５日夜、Ｂ-29（92機）が、JR前橋駅北の市街地を中心に周辺地域を攻撃した「前橋空襲」では、焼夷弾（Ｅ46集束焼夷弾）は691トン、破砕爆弾（Ｔ４Ｅ４破片集束弾）は17.6トン、一般爆弾（M64高性能爆弾）は15.2トン投下とされる。同年８月14日深夜、Ｂ-29（86機）が伊勢崎市街地と周辺地域・玉村町・高崎市東部・前橋市南部を攻撃した「伊勢崎・玉村空襲」では、焼夷弾（Ｅ46集束焼夷弾）は343.2トン、（AN-M47A）は270.9トン、照明弾（AN-M46）は27個投下とされる。両日で上佐鳥・櫛島地区は９戸、横手・新堀・下阿内・亀里地区は３戸の人家と農地が罹災した。（数量・事実などは『群馬県史』通史編７・『戦災と復興』・『前橋市史』第５巻・『群馬県戦災史』・『フィールドワーク群馬の戦争遺跡』から引用・参考にした。市町名・駅名は現在の名称。）

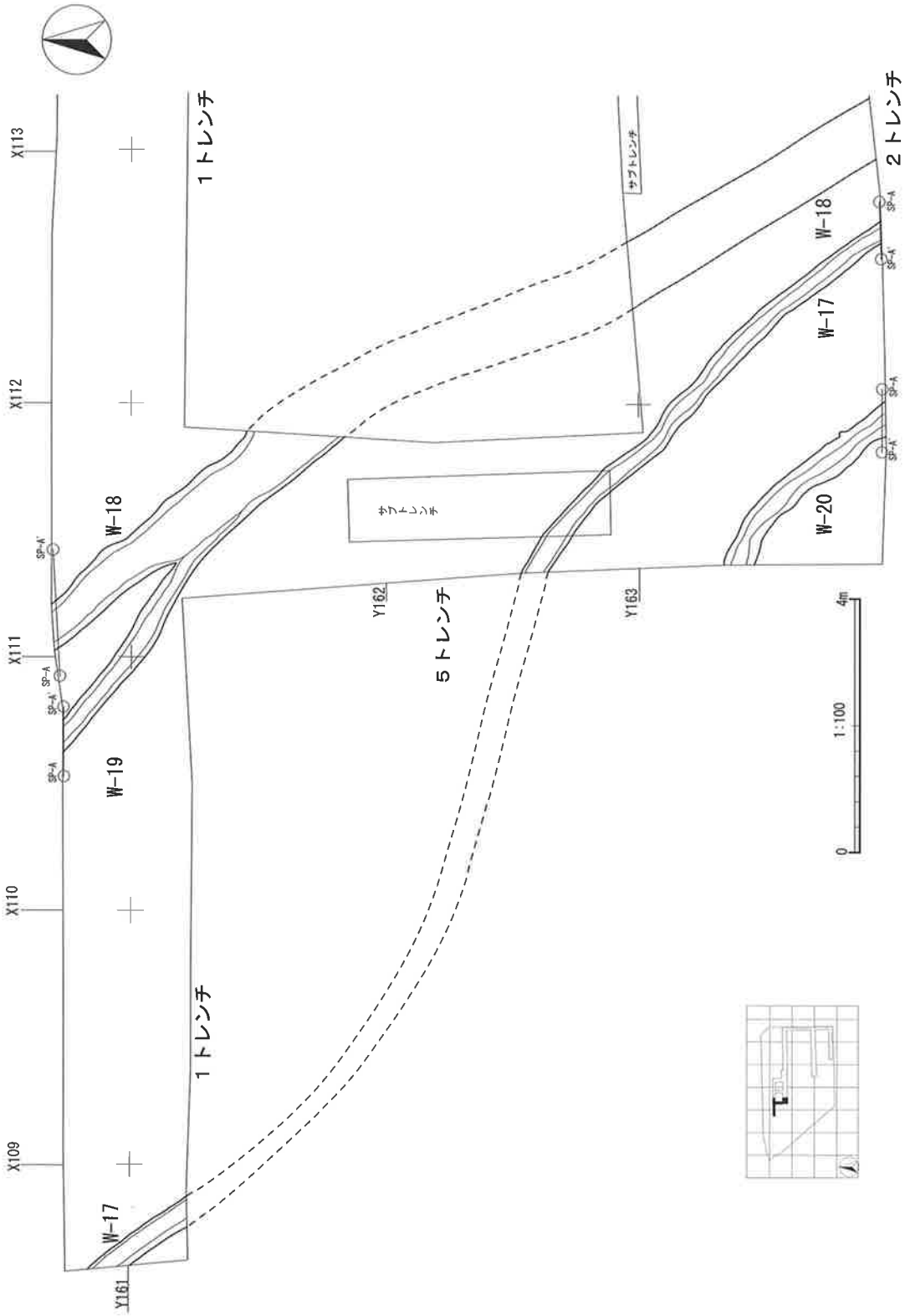
『上川渕村誌』によれば14日深夜の空襲で罹災し、15日に「焼跡整理や田畑に落ちた焼夷弾の抜き取り作業に警防団員が動員」されており、本調査区出土の焼夷弾は15日の作業で取り残されたものの可能性が高く、こうした資料の蓄積により、空襲の実態が理解できるものと思われる。

参考文献

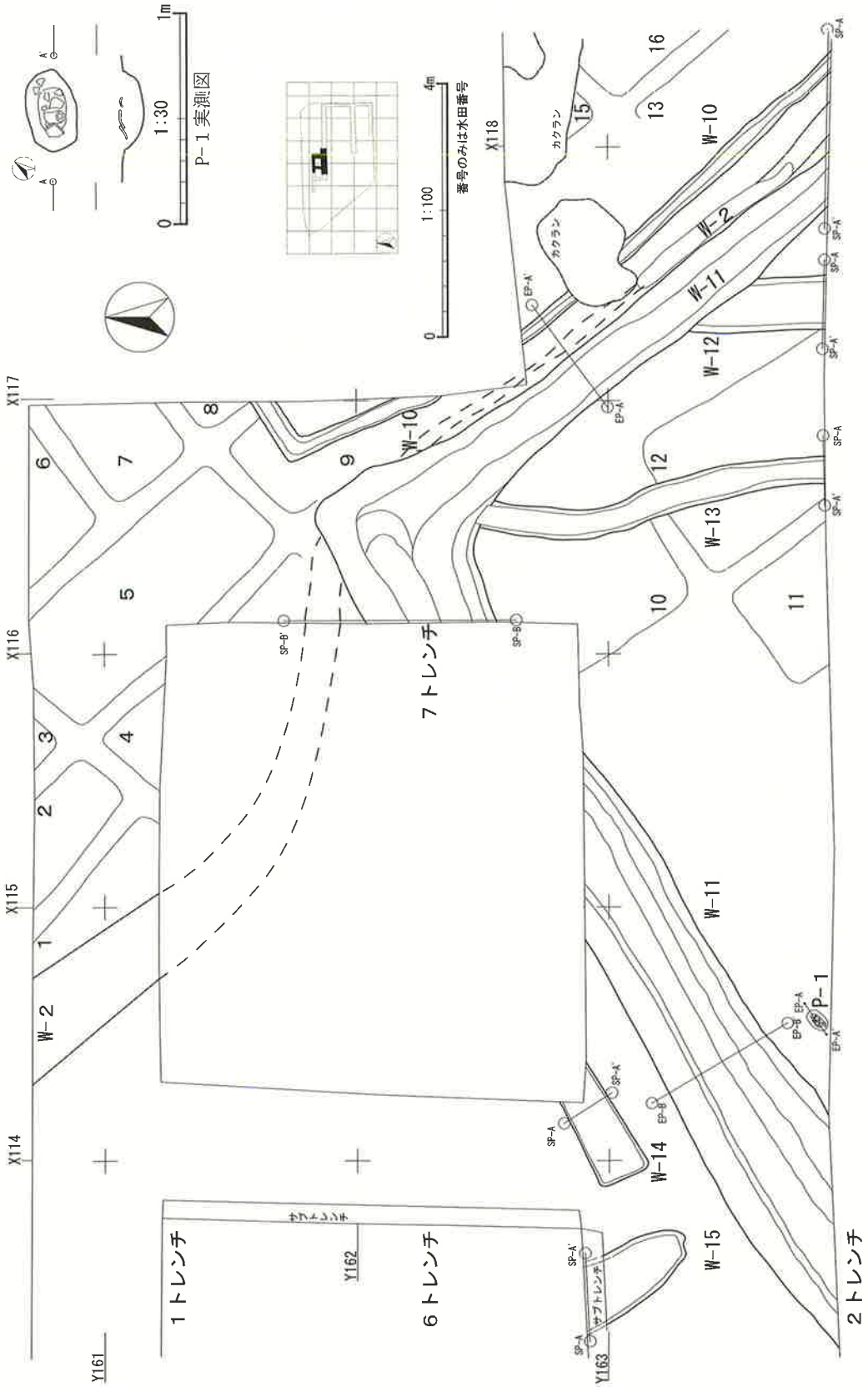
上川渕村誌編纂委員会『上川渕村誌』1979
下川淵村誌編纂委員会『下川淵村誌』1958
前橋市教育委員会『前橋の文化財』1988
前橋市教育委員会『朝倉・広瀬の文化財めぐり』
前橋市『戦災と復興』1964
前橋市『前橋市史』第１巻 1971
前橋市『前橋市史』第３巻 1975
前橋市『前橋市史』第５巻 1984
群馬縣『前橋戦災復興誌』1960
群馬県『群馬県史』通史編第１巻原始古代１ 1990
群馬県『群馬県史』通史編第２巻原始古代２ 1991
群馬県『群馬県史』通史編第３巻中世 1989
群馬県『群馬県史』通史編第７巻近現代１政治・社会 1990
群馬県『群馬県史』資料編第８巻中世４金石文 1988
群馬県教育委員会『東山道』群馬県歴史の道調査報告書第十六集 1983
群馬県教育委員会『鎌倉街道』群馬県歴史の道調査報告書第十七集 1983
群馬県教育委員会『群馬県の中世城館跡』1988
群馬県立歴史博物館『第91回企画展 親鸞と妙安寺』2011
群馬県立歴史博物館『第92回企画展 関東戦国の大乱－享徳の乱、東国の30年戦争－』2011
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団『徳丸高堰遺跡』2005
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団『群馬の遺跡』５古墳時代Ⅱ【集落】上毛新聞社 2005
長野県立歴史館『開館15周年春季企画展 善光寺信仰 流転と遍歴の勧化』2009
伊勢崎市『伊勢崎市史』通史編１原始古代中世 1987
橿原市教育委員会『今井町　歴史的町並み』2009
高崎市『新編高崎市史』通史編１原始古代 2003
玉村町『玉村町誌』通史編上巻 1992
玉村町教育委員会『一万田遺跡』2003
玉村町歴史資料館『平成14年度特別展 玉村町の中世屋敷－堀をめぐらせた屋敷とその時代－』2002
玉村町歴史資料館『平成23年度企画展 国境河川地域、玉村町の戦国時代』2011
かみつけの里博物館『第14回特別展 はるな30年物語。古墳時代に榛名山が噴火した。災害と向き合うヒト、そして復興へ』2006
石守 晃「鎌倉時代那波郡のとある屋敷－中内村前遺跡３区屋敷遺構を中心に－」『研究紀要』22－創立25周年記念論集－財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004
大西雅広「環濠屋敷群に中世をかいま見る」『埋文群馬』No.49 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009
久保田 順一『上野武士団の中世史』みやま文庫143 1996
久保田 順一「中世の戦争」『戦争と群馬』みやま文庫192 2008
近藤義雄「利根川の変流」『群馬県史しおり』通史編第３巻中世 群馬県 1989
近藤義雄他『群馬県民の歴史 ２中世』上毛文庫26 上毛新聞社 1993
近藤義雄他『ぐんまのお寺 天台宗Ⅰ』上毛文庫42 上毛新聞社 1999
近藤義雄『群馬の浄土信仰』みやま文庫191 2008
佐藤寅雄『群馬県戦災史』みやま文庫110 1989
第10回戦争遺跡保存全国シンポジウム群馬県実行委員会『フィールドワーク群馬の戦争遺跡』平和文化 2007
野澤 均「高縄磨崖仏・関磨崖仏考」『あらかわ』第11号 あらかわ考古談話会 2008
能登 健「群馬県下における埋没田畠調査の現状と課題－火山災害史への考古学的アプローチ－」『群馬県史研究』第17号 群馬県 1983
堀部 日出雄「大和環濠聚落の史的研究」『橿原考古学研究所紀要』第１冊 奈良縣教育委員会 1951
諸田康成「前橋台地における古代集落の一様相－櫛島川端遺跡・公田東遺跡・公田池尻遺跡の再検討－」『考古学の窓　巾 隆之氏定年退職記念特集号』國學院大學卒業生有志 in 群馬 2008
和久拓照『朝倉工業団地遺跡群』前橋市教育委員会 2012


1トレンチ
2トレンチ
3トレンチ
4トレンチ
5トレンチ
6トレンチ
7トレンチ
8トレンチ
試掘トレンチ
X110
X115
X120
X125
Y165
Y170
1:400

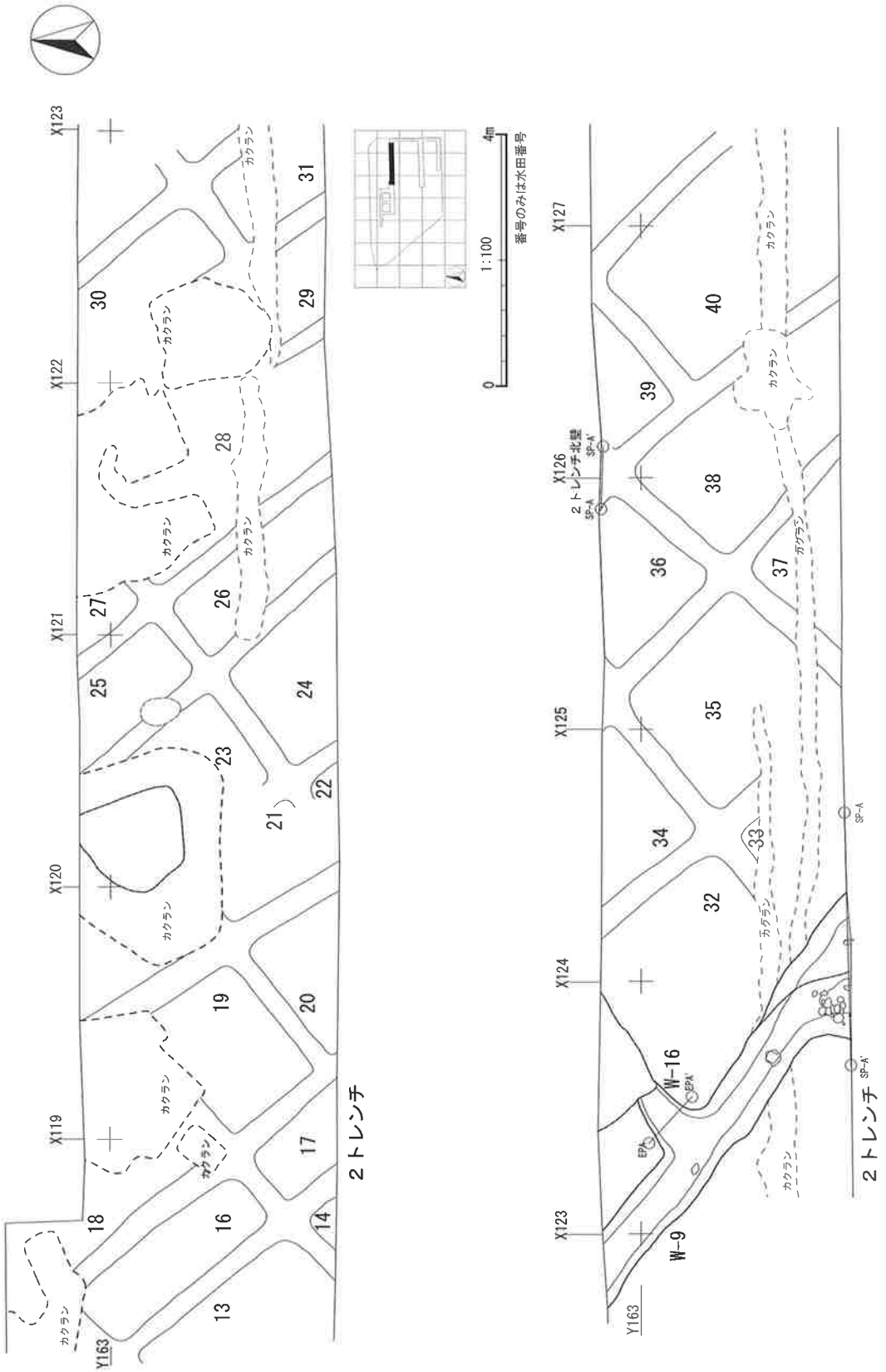
第５図　調査区全体図


X113
X112
X111
X110
X109
1トレンチ
サブトレンチ
2トレンチ
W-18
W-17
W-20
W-19
Y162
Y163
5トレンチ
Y161
SP-A
SP-A'
0
1:100
4m

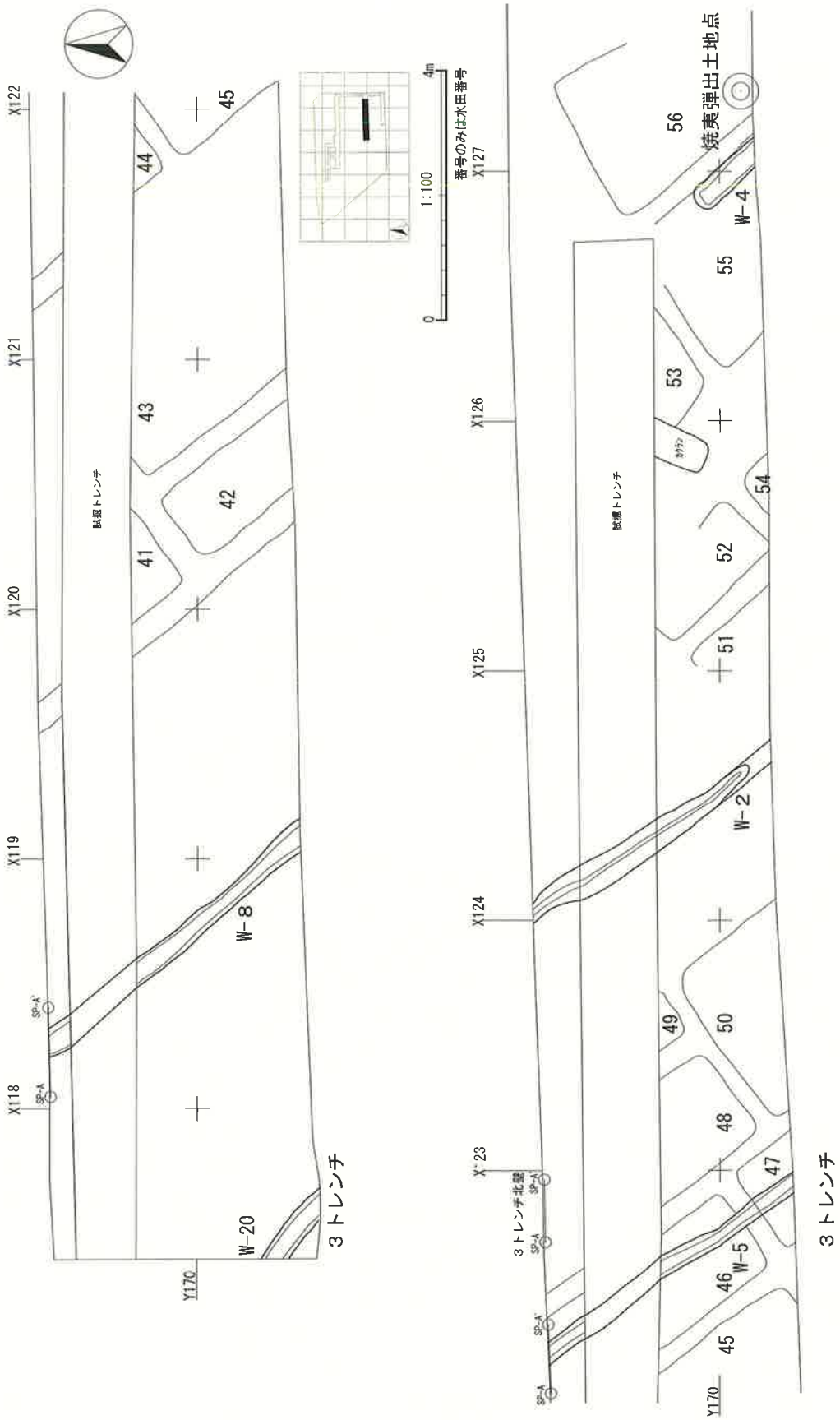
第６図　遺構実測図（１）


P－1 実測図
1:30
1:100
番号のみは水田番号
カクラン
7トレンチ
6トレンチ
1トレンチ
2トレンチ
W－2
W－10
W－11
W－12
W－13
W－14
W－15
X114
X115
X116
X117
X118
Y161
Y162
Y163

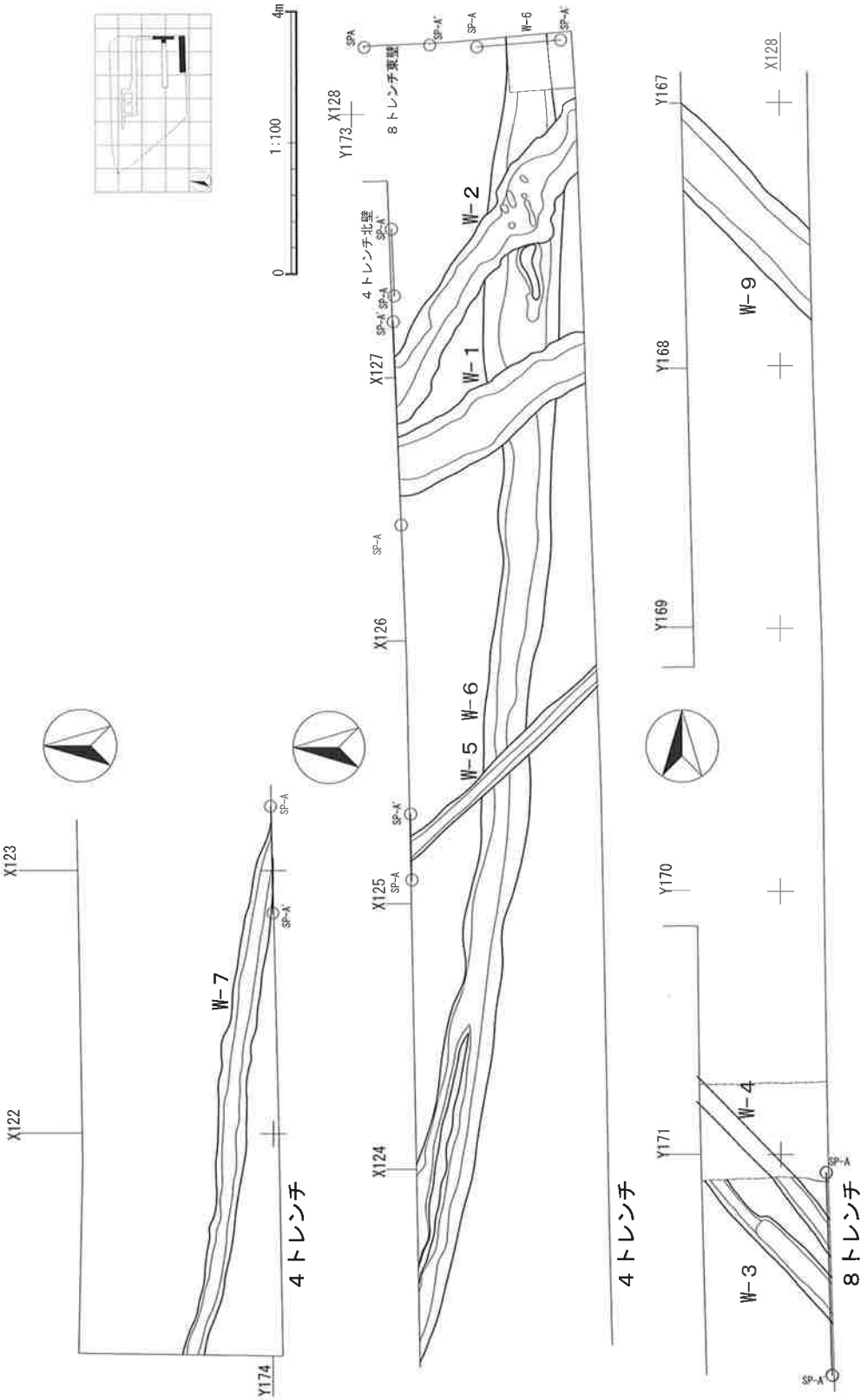
第７図　遺構実測図（２）


X123
X122
X121
X120
X119
Y163
カクラン
13
14
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
2トレンチ
1:100
0
4m
番号のみは水田番号
X127
X126
X125
X124
X123
Y163
2トレンチ北壁
SP-A'
SP-A
32
33
34
35
36
37
38
39
40
W-16
W-9
EP
EP'
2トレンチ

第８図　遺構実測図（３）

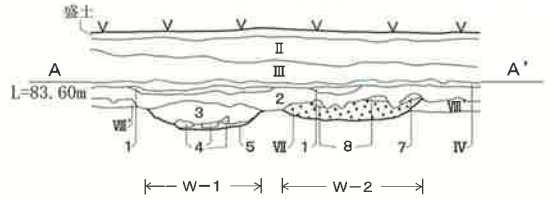

X122
X121
X120
X119
X118
X127
X126
X125
X124
X123
Y170
試掘トレンチ
試掘トレンチ
45
44
43
42
41
W-8
W-20
3トレンチ
56
55
53
54
52
51
W-2
49
50
48
47
46
W-5
45
W-4
焼夷弾出土地点
3トレンチ
3トレンチ北壁
SP-A
SP-A'
1:100
0
4m
番号のみは水田番号

第９図　遺構実測図（４）


0
1:100
4m
8トレンチ東壁
4トレンチ北壁
X128
Y173
X127
X126
X125
X124
X123
X122
Y174
Y167
Y168
Y169
Y170
Y171
W-1
W-2
W-3
W-4
W-5
W-6
W-7
W-9
SP-A
SP-A'
4トレンチ
8トレンチ

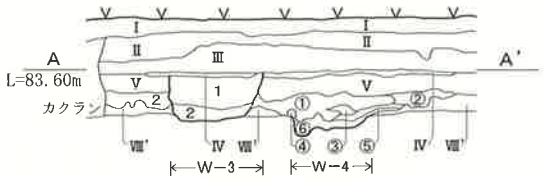
第10図　遺構実測図（5）

W－1・2（4トレンチ）



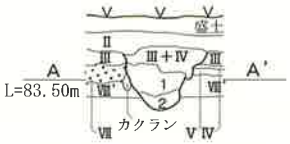
1.10YR5/6 黄褐色土 粘性なし、締まりあり。 As-Bが主体。 白色軽石φ2mm5%含む。
2.10YR4/4 褐色土 粘性なし、締まりややあり。 As-Bが主体。 白色軽石φ2mm5%含む。
3.10YR3/3 暗褐色土 粘性あり、締まりややあり。 As-Bを含む。 白色軽石φ1mm30%含む。
4.10YR3/2 黒褐色土 粘性なし、締まりややあり。 As-Bを含む。
5.10YR3/3 暗褐色土 粘性なし、締まりあり。As-Bを多量に含む。
6.10YR5/6 黄褐色土 粘性あり、締まりあり。As-Bを含む。
7.紫灰色土 As-Bの上層（一次堆積）。
8.10YR3/3 暗褐色土 粘性なし、締まりあり。 As-Bが主体。
※W-1 As-B混土の溝。
W-2 As-Bの一次堆積の溝。
W-1よりW-2が古い。

W－3・4（8トレンチ）



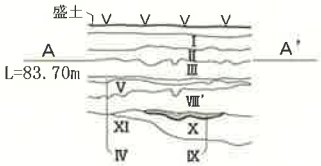
1.10YR4/4 褐色土 粘性あり、締まりあり。 As-Bを含む。
2.10YR4/2 灰黄褐色土 粘性あり、やや締まりあり。
①10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性なし、やや締まりあり。 As-Bを多量に含む。
②10YR3/4 暗褐色土 粘性ややあり、締まりあり。 As-Bを多量に含む。
③10YR3/2 黒褐色土 粘性あり、やや締まりあり。 As-Bを含む。
④10YR3/2 黒褐色土 粘性あり、やや締まりあり。 As-Bを少量含む。
⑤10YR4/2 灰黄褐色土 As-B層。 二次堆積。
⑥10YR3/2 黒褐色土 粘性あり、やや締まりあり。 下位にAs-Bを層状に含む。

W－5（3トレンチ）



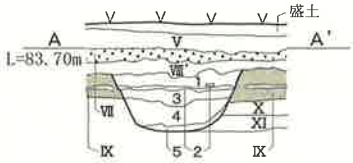
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり、締まりあり。 As-Bを含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性非常。にあり、締まりあり。 As-B少量含む
※覆土にAs-Bを含む中世の溝。

W－6（4トレンチ）



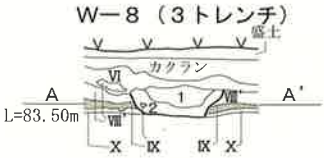
※非常に浅い 古墳時代後期の古い溝と思われる。

W－7（4トレンチ）



1. 10YR4/4 褐色土 粘性あり、やや締まりあり。 As-B少量含む。
2. 10YR5/6 黄褐色土 粘性あり、やや締まりあり。 白色軽石φ1mm1%含む。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性あり、やや締まりあり。 白色軽石φ1mm1%含む。
4. 10YR3/3 暗褐色土 粘性非常にあり、締まりあり。
5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性非常にあり、締まりあり。
※Hr-FPF1と同じ様に見える。古い時代の溝と思われる。（古墳時代 6世紀代）

W－8（3トレンチ）

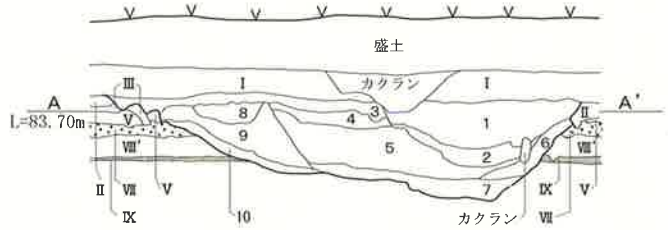


1. 10YR4/4 褐色土 粘性あり、締まりあり。 白色軽石φ1mm5%含む。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性非常にあり、締まりあり。 白色軽石φ1mm3%含む。
※As-Bより古い時代の溝。

W－11・10（2トレンチ）

W－11（2トレンチ）

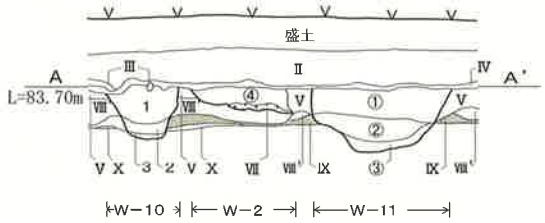
W－9（2トレンチ）



1. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり、締まりあり。ビニール入る。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性あり、締まりあり。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり、やや締まりあり。
4. 10YR4/6 褐色土 粘性あり、やや締まりあり。
5. 10YR4/4 褐色土 粘性あり、締まりあり。 As-Bを含む。
6. 10YR3/3 暗褐色土 粘性ややあり、締まりあり。 As-Bを少量含む。
7. 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり、締まりあり。 As-Bを多量に含む。
8. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり、締まりあり。
9. 10YR4/4 褐色土 粘性あり、締まりあり。 As-B少量含む。
10. 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり、締まりややあり。 As-B含む。

0 1:60 3m

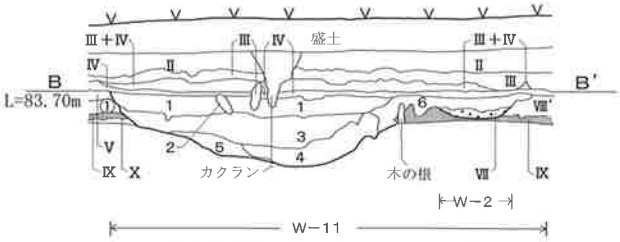
W－10・2・11（2トレンチ）



1. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり、締まりあり。 As-Bを含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり、やや締まりあり。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり、締まりあり。
※覆土にAs-B混土の中世の溝。 基本土層のXまで掘り込む。
①. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり、締まりあり。 φ10mm黄褐色土ブロック15%、φ10～20mm黒色土ブロック10%、As-Bを含む。
②. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり、締まりあり。 φ10～30mm黄褐色土ブロック30%、As-Bを含む。
③. 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり、やや締まりあり。
④. 10YR4/4 褐色土 粘性あり、やや締まりあり。 黒褐色土ブロックφ10mm2%、黄褐色土ブロックφ10mm5%含む。
※W-11はW-2より新しい。 基本土層のXIまで掘り込む。

第11図 遺構断面図（1）

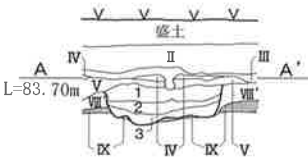
W－１１・２（７トレンチ）



1. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり、締まりあり。 黒色土ブロックφ10mm3%、黄褐色土ブロックφ10～30mm15%、白色軽石φ1mm10%含む。
2. 10YR5/2 灰黄褐色土 粘性ややあり、締まりあり。 白色軽石φ1mm2%含む。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり、締まりあり。 黒色土ブロックφ10～50mm30%、黄褐色土ブロックφ10mm7%含む。
4. 10YR4/4 褐色土 粘性あり、やや締まりあり。 黒褐色土ブロックφ10mm2%、黄褐色土ブロックφ10mm5%含む。
5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり、締まりあり。 黒褐色土ブロックφ10mm5%、黄褐色土ブロックφ10mm2%含む。
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性ややあり、やや締まりあり。 黒色土ブロックφ10～30mm2%含む。

①10YR4/4 褐色土 粘性ややあり、締まりあり。 黒褐色土ブロックφ5mm10%、黄褐色土ブロックφ5mm1%含む。

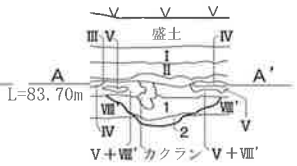
W－１２（２トレンチ）



1. 10YR4/4 褐色土 粘性あり、締まりあり。
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色土 粘性あり、やや締まりあり。
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色土 粘性あり、締まりあり。

※覆土にAs-B含まず、Ⅶ層に近い。 W-11より古い。

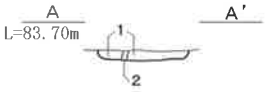
W－１３（２トレンチ）



1. 10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性あり、締まりあり。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり、やや締まりあり。

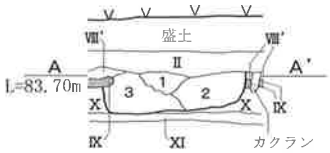
※覆土にAs-B含まず、 W-11より古い。

W－１４（２トレンチ）



1. 10YR4/4 褐色土 粘性なし、締まりあり。 黄褐色土ブロックφ10mmを多量に含み、As-Bを含む。
2. 10YR2/1 黒色土 粘性非常にあり、締まりあり。Hr－ FA下の黒色土ブロック。

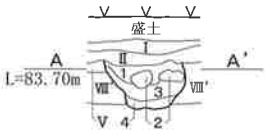
W－１５（２トレンチ）



1. 10YR4/4 褐色土 黄褐色土ブロックφ20mm30%、As-B少量含む。
2. 10YR4/4 褐色土 暗褐色土ブロックφ50mm40%、As-B少量含む。
3. 10YR4/4 褐色土 黄褐色土ブロックφ5mm、暗褐色土ブロックφ10mm40%、As-B少量含む

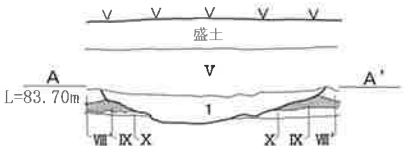
W－１６（２トレンチ）

W－１７（２トレンチ）



1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性ややあり、締まりあり。 黒色土ブロックφ5mm5%、黄褐色土ブロックφ10mm10%含む。
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色土ブロック粘性なし、締まりあり。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性あり、締まりあり。 黒色土ブロックφ5mm5%含む。
4. 10YR4/4 褐色土 粘性あり、締まりあり。 黄褐色土ブロックφ5mm5%含む。

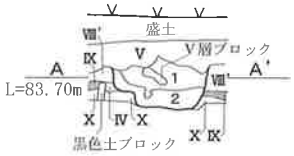
W－１８（１トレンチ）



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性ややあり、締まりあり。 黄褐色土ブロックφ10mm7%、黒色土ブロックφ10mm2%、As-Bを少量含む。

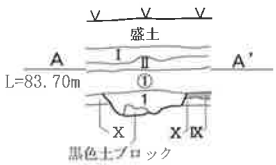
※W-19はW-18より古い。

W－１９（１トレンチ）



1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性ややあり、締まりあり。 黒色土ブロックφ5～10mm5%、白色軽石φ1mm3%、As-Bを少量含む。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり、締まりあり。 白色軽石φ1mm2%含む。 Ⅸ層に似る。

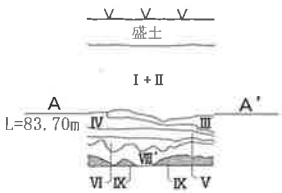
W－２０（２トレンチ）



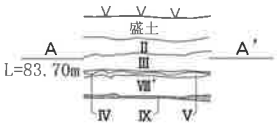
1. 10YR4/6 褐色土 粘性あり、やや締まりあり。 黒色土ブロックφ5mm5%含む。

①10YR3/3 暗褐色土 粘性あり、締まりあり。 黒色土ブロックφ5mm2%、黄褐色土ブロックφ10mm5%含む。

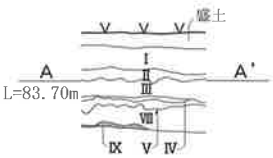
２トレンチ北壁



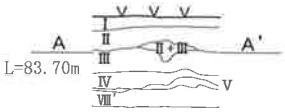
３トレンチ北壁



４トレンチ北壁



８トレンチ東壁

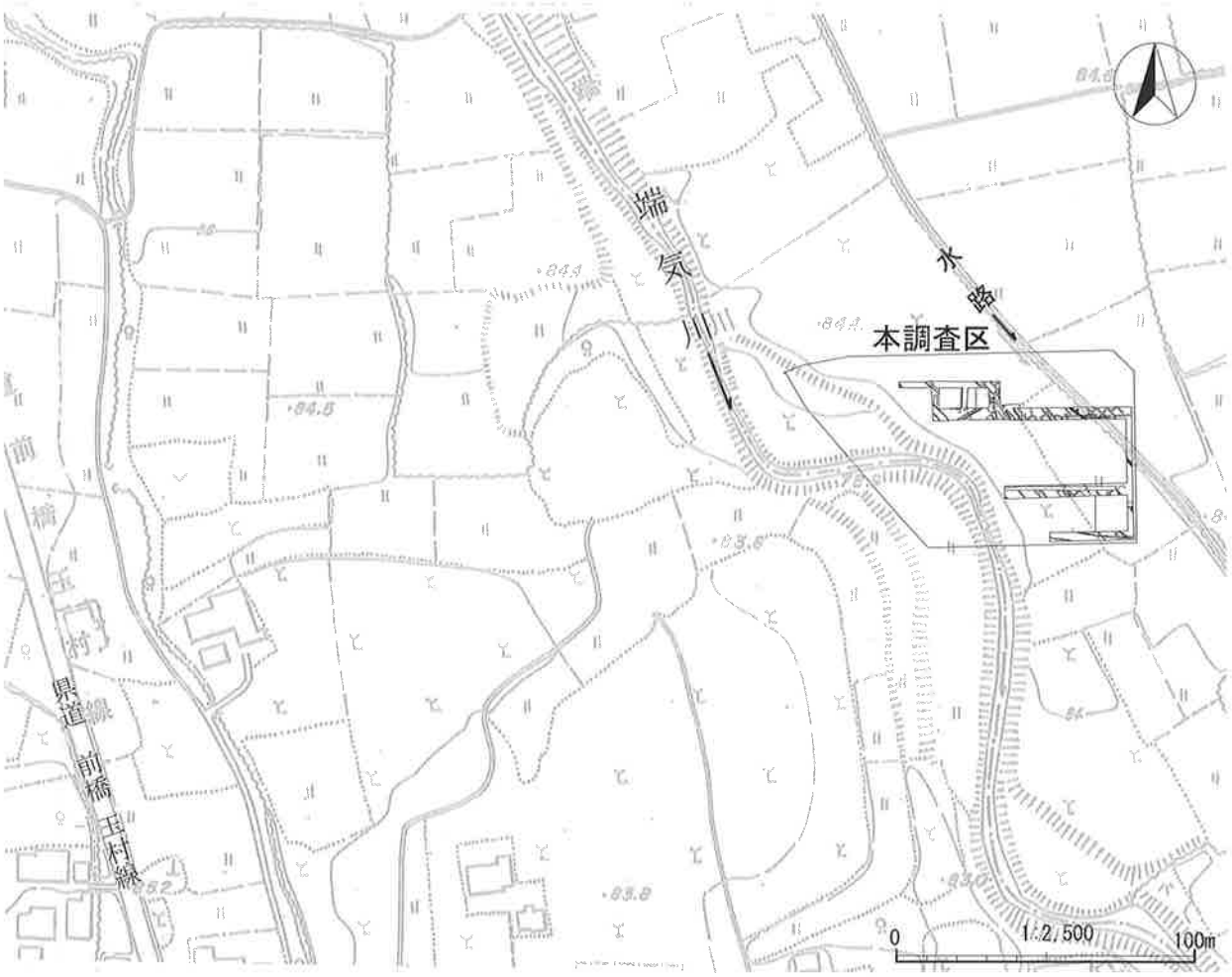


0　1:60　3m

第12図　遺構断面図（２）

第１表 Hr － FA 層下水田計測表　　（　）は推定値、［　］検出値を表す。

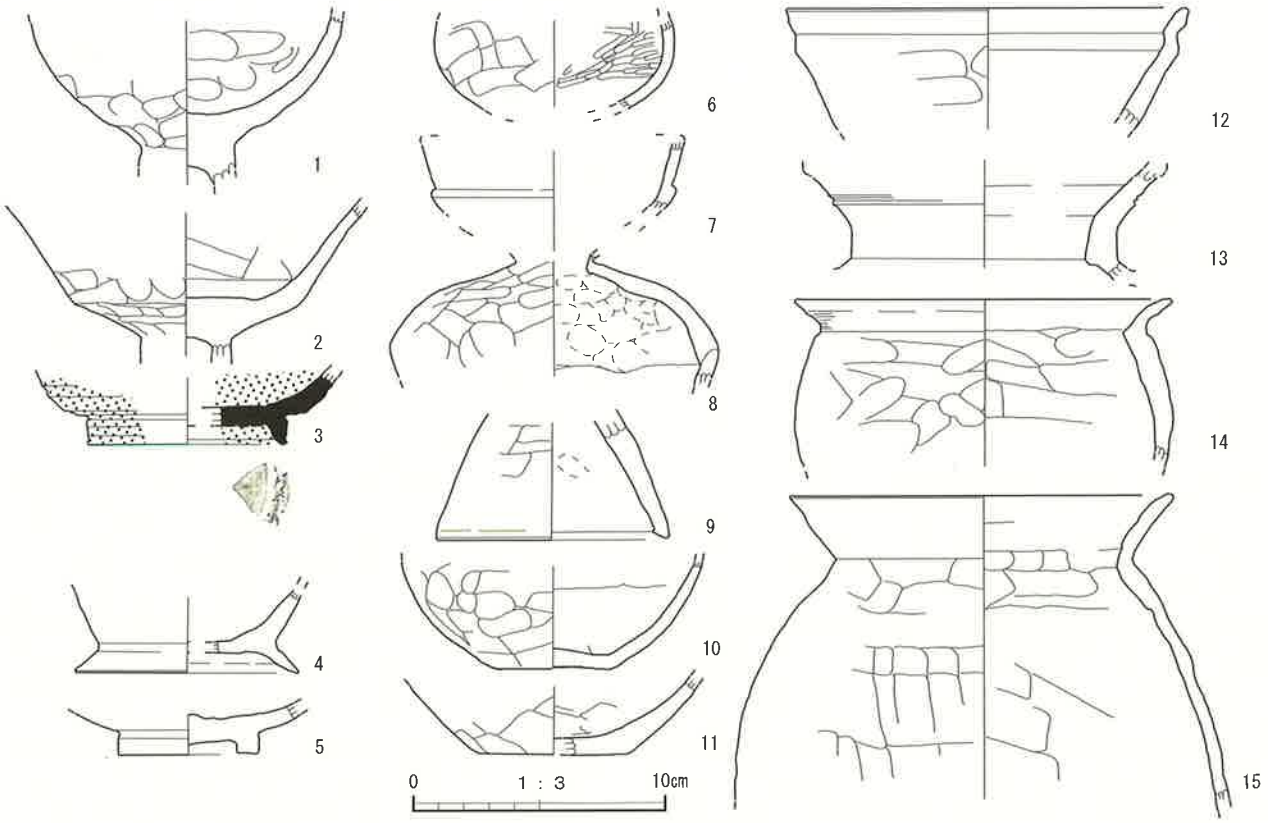
水田番号	面積（㎡）	東畦長（m）	東畦幅（m）	西畦長（m）	西畦幅（m）	南畦長（m）	南畦幅（m）	北畦長（m）	北畦幅（m）
1	[2.09]	[2.64]	0.30			[0.33]			
2	[1.83]	[0.94]	0.35	[2.64]	0.30	1.34	0.37		
3	[0.17]			[0.94]	0.35	[0.94]	0.37		
4	(5.73)	(4.77)	0.33			(1.92)		[1.67]	0.37
5	(8.01)	[3.75]	0.33	(4.77)	0.33	1.90	0.32	[0.94]	0.37
6	[1.45]			[1.89]	0.33	[2.26]	0.39		
7	[2.12]			[1.86]	0.33	[0.93]	0.33	[2.26]	0.39
8	[0.26]			[0.98]	0.33			[0.93]	0.33
9	[0.95]	[0.98]	0.33	[0.61]				1.90	0.32
10	[4.78]			[2.52]		(2.80)	0.34		
11	[2.33]	[2.27]	0.33	[0.72]				2.19	
12	[6.80]	[3.87]		[2.27]	0.33			(2.80)	0.34
13	(4.10)	3.51	0.30			[1.05]	0.34	(1.62)	
14	[0.21]	[1.03]	0.39					[1.05]	0.34
15	[0.16]			[0.79]		[1.35]	0.34		
16	(3.22)	(3.60)	0.41	3.51	0.30	1.32	0.33	(1.35)	0.34
17	[1.42]	[2.04]	0.37	[1.03]	0.39			1.32	0.33
18	[1.91]	[0.87]		(3.60)	0.41	(2.87)			
19	(3.84)	1.88	0.49	[2.04]	0.37	2.55	0.31	(2.87)	
20	[2.10]	[2.09]	0.41	[0.19]				2.55	0.31
21	(2.33)	(2.20)		2.09	0.41	1.53		(1.61)	
22	[0.29]	[0.94]	0.30					1.53	
23	[1.47]	(2.73)	0.30	(2.20)		2.13	0.36		
24	[3.16]	(2.73)	0.32	[0.94]	0.30			2.13	0.36
25	[2.24]	[1.59]	0.28	(2.73)	0.30	1.42	0.30		
26	[3.01]	(3.59)	0.31	(2.73)	0.32			1.42	0.30
27	[0.64]			[1.59]	0.28	[0.56]	0.32		
28	[2.05]	[0.97]	0.26	(3.59)	0.31			[0.56]	0.32
29	[1.19]	(2.44)	0.36	[0.97]	0.26				
30	[2.54]	[2.23]	0.33	[0.85]		1.43	0.37		
31	[1.29]	[1.08]	0.38	(1.59)	0.36			1.43	0.37
32		[2.32]	0.38			[1.20]	0.40		
33	[0.12]	(2.62)	0.47					[1.20]	0.40
34	[2.42]			[2.32]	0.38	2.71	0.38		
35	(6.47)	2.80	0.33	(2.62)	0.47	(2.36)	0.42	2.71	0.38
36	[2.78]			2.80	0.33	2.44	0.39		
37	[2.32]	(2.71)	0.19					(2.36)	0.42
38	[6.57]	[4.73]	0.35	(2.71)	0.19			2.44	0.39
39	[1.60]			[1.80]	0.33	2.42	0.37		
40	[7.15]	[2.96]	0.34	(2.93)	0.37			2.42	0.37
41				(3.50)	0.43	1.60	0.43		
42	[2.69]	[2.94]	0.35	[1.84]	0.43			1.60	0.43
43				[2.94]	0.35			[0.30]	
44				(3.09)	0.39	[1.99]	0.31		
45	(4.41)	(3.13)	0.30	[1.97]		[0.37]		(1.99)	0.31
46	[4.00]	[3.47]	0.34	(3.13)	0.30	(1.75)	0.32		
47	[0.99]	[1.12]	0.28	[0.25]				(1.75)	0.32
48	[2.32]	[0.77]	0.38	(4.59)	0.32	1.89	0.28		
49	[0.24]			[0.77]	0.38	1.13	0.25		
50	[3.36]	[2.32]		[0.34]				3.02	0.27
51		[2.13]	0.36						
52	(6.43)	(1.70)	0.34	[2.13]	0.36	[1.10]	0.32	[0.37]	
53	[1.05]			(1.70)	0.34	(2.95)	0.30		
54	[0.24]	[0.98]	0.32					[1.10]	0.32
55	[4.29]	[2.74]	0.32	[0.98]	0.32			(2.95)	0.30
56	[4.68]	[1.57]		[2.74]	0.32			2.78	



第13図　昭和43年度版の都市計画図と本調査区の位置

第２表 溝跡計測表　　（　）は推定値、［　］は検出値を表す。

番号	位置	長さ (m)	深さ (cm)	溝底のレベル (m)	(cm) 上端	(cm) 下端	走向	備考
W-1	X126～127.Y173	[3.32]	10.4～16.3	83.203～83.226	83～101	46～59	N-31°-W	
W-2	X114～128.Y160～173	(75.58)	1.5～7.9	83.360～83.199	20～192	5～23	N-34°-W	足跡状の凹凸あり。
W-3	X127～128.Y172	[2.46]	4.5～12.0	83.210～83.130	28～47	16～32	N-45°-W	全面に足跡状の凹凸あり。
W-4	X127～128.Y169～171	(7.6)	3.0～5.0	83.285～83.210	30～43	16～32	N-43°-W	全面に足跡状の凹凸あり。
W-5	X122～125.Y169～173	(23.4)	9.0～15.6	83.370～83.177	24～32	12～18	N-35°-W	
W-6	X123～127.Y173	[15.82]	3.8～13.5	83.302～83.259	86～114	57～69	N-85°-W	
W-7	X121～123.Y173	[7.71]	6.9～12.5	83.055～83.025	32～33	13～15	N-81°-W	
W-8	X118～119.Y169～173	[5.3]	2.1～4.0	83.288～83.290	26～45	17～29	N-40°-W	
W-9	X122～128.Y162～167	(28.4)	10.0～11.5	83.269～83.261	75～171	37～92	N-28～49°-W	底面全体に凹凸あり。
W-10	X116～118.Y161～163	(11.42)	0.5～5.5	83.284～83.290	17～36	12～19	N-37°-W	
W-11	X113～118.Y161～163	(21.93)	25～37	83.415～83.040	8～210	24～61	N-31°-W	
W-12	X117.Y163	[1.63]	3.5～6.5	83.405～83.282	83～84	65	N-1°-W	
W-13	X116.Y162～163	[5.55]	6.0～10.0	83.360～83.355	44～48	28～33	N-9°-W	
W-14	X113.Y162～164	[1.4]	8.0～8.5	83.400～83.405	68～82	60～72	N-58°-W	
W-15	X113.Y162～163	[1.8]	5.5～9.5	83.370～83.390	63～104	44～89	N-29°-W	
W-16	X123.Y162～163	[1.02]	21.5	83.13	49～94	38～57	N-52°-W	
W-17	X105.Y161～162	(20.86)	10.5～18.5	83.405～83.330	29～41	18～27	N-45°-W	
W-18	X111～113.Y160～163	(15.22)	1.0～4.5	83.420～83.445	65～107	43～83	N-30°-W	
W-19	X110～111.Y160～161	[3.68]	4.0～6.0	83.460～83.440	29～36	17～18	N-55°-W	
W-20	X111～112.Y163～164	[3.35]	6.0～10.0	83.310～83.345	38～41	23～25	N-36°-W	全面に足跡状の凹凸あり。



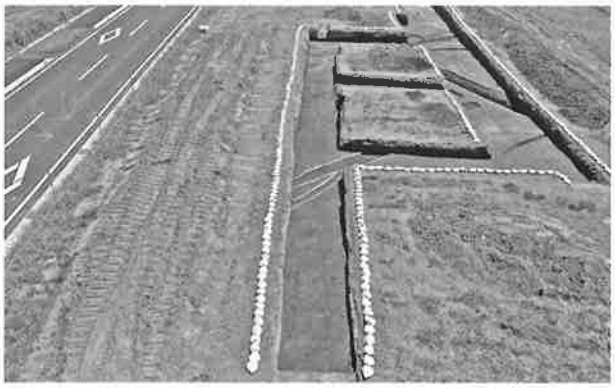
第14図　出土遺物実測図

第３表 出土遺物観察表

法量は①口径②底径③最大径④器高を表し、単位はcmである。また（　）は推定値、［　］は現存値を表す。

番号	遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、成・整形方法	備　考
1	P - 1	No. 1	土師器 高坏	③[12.4] ④[6.5]	①細粒(白色粒・小礫含む)②やや不良(酸化) ③淡黄2.5Y8/3 ④坏部	内面は指ナデ、篦ナデ。外面は指ナデ。	黒斑あり。
2	X109.Y160	一括	土師器 高坏	③[14.0] ④[5.6]	①細粒(白色粒・小礫含む)②やや不良(酸化) ③淡黄2.5Y8/3 ④坏部	内面は指ナデ。外面は指ナデ。外面に稜を付けて立ち上げる。	黒斑あり。
3	W - 9	一括	灰釉陶器 高台付埦	②(8.0) ④[2.6]	①細粒(小礫含む)②良好(還元) ③灰白7.5YR7/2 ④底部片	重ね焼き痕あり。ロクロ成形後、糸切り、高台貼付。	
4	3トレンチ	一括	須恵器 高台付埦	②(9.0) ③[8.9] ④[3.1]	①細粒(砂粒多く含む)②良好(酸化) ③明黄褐2.5Y67/6 ④底部片	ロクロ成形後、高台貼付。	
5	W - 9	No. 1	陶器 高台付埦	②(5.6) ③(8.9) ④[1.6]	①細粒(砂粒含む)②良好(酸化) ③浅黄2.5Y7/4 ④底部片	重ね焼き痕あり。自然釉が点在する。一部赤化。	
6	1トレンチ	一括	土師器 坩	③(9.3) ④[3.3]	①細粒(砂粒含む)②良好(酸化) ③橙7.5YR6/6 ④体部片	内面は磨き。外面は指ナデ。	
7	3トレンチ	一括	土師器 坏	③(10.2) ④[3.6]	①細粒(砂粒含む)②良好(酸化) ③橙5YR7/8 ④体部片	体部に稜を持つ。	須恵器模倣坏。
8	1トレンチ	一括	土師器 壺	③(12.9) ④[4.5]	①細粒(砂粒含む)②良好(酸化) ③橙5YR6/6 ④体部片	内面は指押さえ、外面は指ナデ。粘土接合痕あり。	
9	X113.Y161	一括	土師器 台付甕	②4.4 ③[11.9] ④[4.2]	①細粒(小礫含む)②良好(還元酸化) ③橙7.5YR6/6 ④底部	指ナデ、篦ナデ。	
10	X114.Y161	一括	土師器 甕	②(6.0) ③[11.4] ④[2.7]	①細粒(砂粒・白色粒・雲母含む)②やや不良(酸化) ③にぶい褐7.5YR6/3 ④底部片	指ナデ。	
11	X113.Y162	一括	土師器 甕	②(9.3) ④[4.8]	①中粒(砂粒含む)②やや不良(酸化) ③にぶい橙5YR7/4 ④台部片	指ナデ。	
12	W -17	一括	土師器 甕	①(15.9) ④[4.8]	①細粒(砂粒含む)②やや不良(酸化) ③淡黄7.5Y8/4 ④口縁部片	指ナデ。	
13	3トレンチ	一括	土師器 壺	③(14.1) ④[4.2]	①中粒(砂粒含む) ②良好(酸化) ③橙5YR6/8④頸部片	外面篦ナデ。指ナデ。	
14	X110.Y160	一括	土師器 甕	①(15.0) ③(15.0) ④[6.6]	①中粒(砂粒含む)②やや不良(酸化) ③浅黄2.5Y7/3 ④口縁部から体部片	指ナデ。	
15	X113.Y162	一括	土師器 甕	①15.0 ③[19.5] ④[12.0]	①細粒(砂粒・小礫含む)②良好(酸化) ③にぶい褐7.5YR6/3④口縁部から体部	一部篦ナデ、指ナデ。	

図版１〈１・２・５トレンチ：遺構〉



１トレンチ俯瞰（西から）

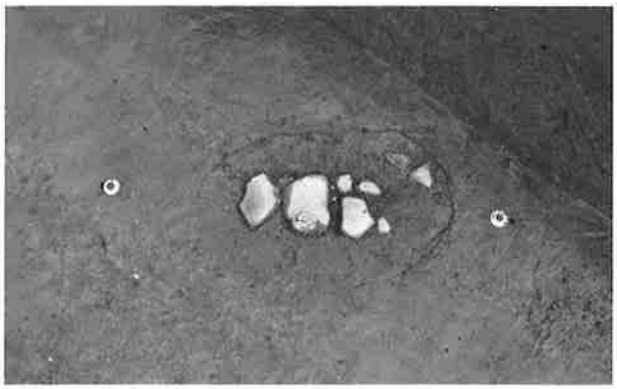
１トレンチ東側水田跡（西から）

Ｗ-19・18号溝跡（南東から）

２トレンチ中央部水田跡（西から）

２トレンチ東側水田跡（西から）

Ｗ-９・16号溝跡〈２トレンチ〉（南から）

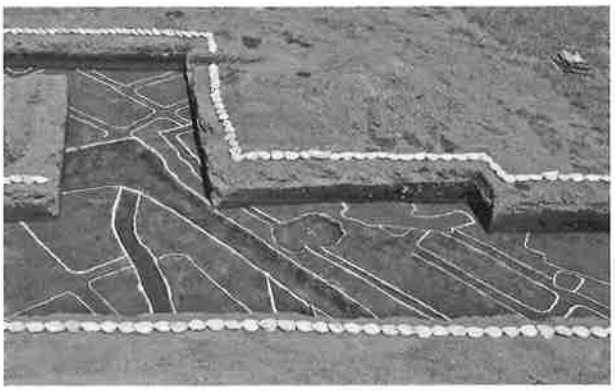


Ｐ-１ピット遺物出土状況（北西から）

Ｐ-１ピット全景（北西から）

図版２〈２・５・６・７トレンチ：遺構〉

２・５・６・７トレンチ俯瞰（南から）



２トレンチ西側・７トレンチ俯瞰（南から）

W-２・10・11・12・13号溝跡〈２トレンチ〉（南東から）

W-11号溝跡〈２トレンチ〉（南西から）

W-11号溝跡〈２・７トレンチ〉（北から）

W-15・14号溝跡（南から）

W-17号溝跡〈２トレンチ〉（南東から）

W-20号溝跡〈２トレンチ〉（南東から）

図版３〈３トレンチ：遺構〉

３トレンチ俯瞰（西から）

３トレンチ（東から）

３トレンチ水田跡（東から）

W-２号溝跡〈３トレンチ〉（南から）

W-４号溝跡〈３トレンチ〉（北から）

W-５号溝跡〈３トレンチ〉（南から）

W-８号溝跡〈３トレンチ〉（南から）

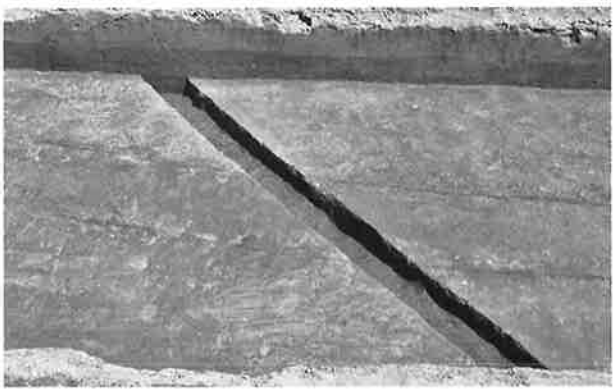
３トレンチ北壁（南から）

図版４〈４・８トレンチ：遺構〉

４・８トレンチ俯瞰（南から）

W-１・２号溝跡〈４トレンチ〉（南東から）

W-１・２・５・６号溝跡〈４トレンチ〉（東から）



W-５号溝跡〈４トレンチ〉（南から）

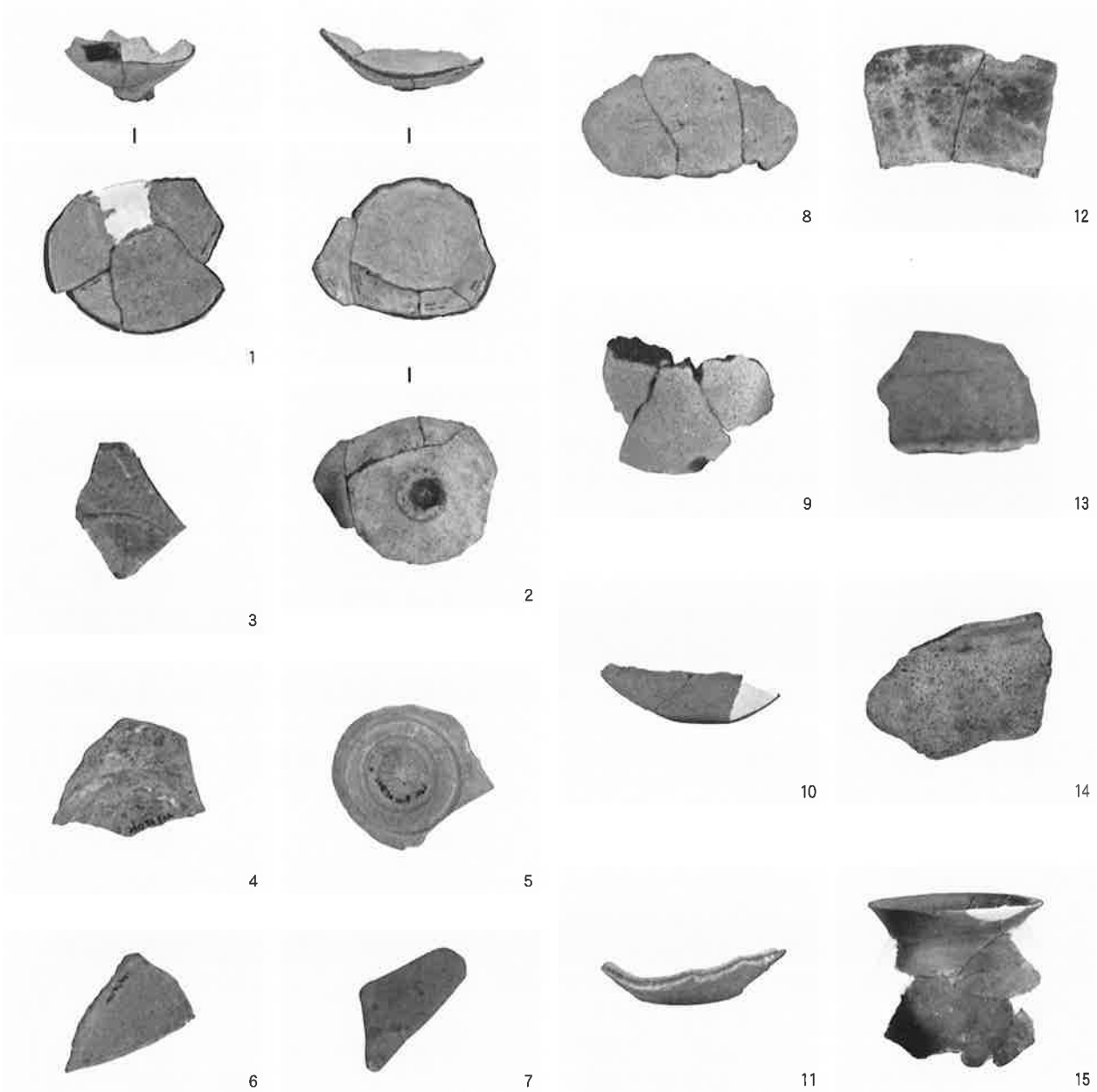
W-６号溝跡（西から）

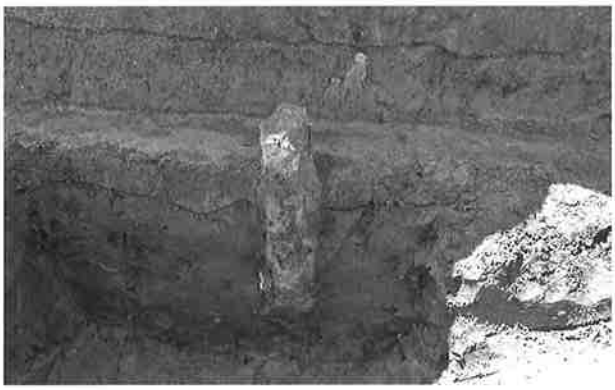
W-７号溝跡（西から）

W-３・４号溝跡〈８トレンチ〉（南から）

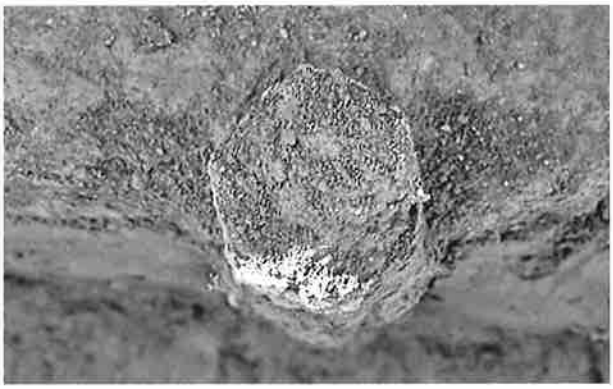
W-９溝跡〈８トレンチ〉（南東から）

図版５〈遺物・焼夷弾〉





焼夷弾検出状況〈３トレンチ〉（北から）



焼夷弾検出状況〈３トレンチ〉（上から）

抄　　録

フリガナ	アサクラコウギョウダンチイセキグンナンバー３
書名	朝倉工業団地遺跡群No.３
副書名	伊藤忠丸紅特殊鋼株式会社特殊鋼センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	福田貫之（前橋市教育委員会） 瀧澤典雄（スナガ環境測設株式会社）
編集機関	スナガ環境測設株式会社 〒371-0056群馬県前橋市青柳町211番地の１
発行機関	前橋市教育委員会　文化財保護課 〒371-0018群馬県前橋市三俣町２丁目10番地の２
発行年月日	西暦2012年11月９日

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
アサクラコウギョウ 朝倉工業 ダンチイセキグン 団地遺跡群 ナンバー No. ３	グンマケンマエバシシシモ 群馬県前橋市下 サトリマチ 佐鳥町 17-2・201-5・223-2・228-1・279-2・1083-1・1093-3・1094-4	10201	00805	36°20′52″	139°05′35″	20120717 ～ 20120827	713㎡	倉庫建設

所収遺跡	種別	時代	遺構	遺物	特記事項
朝倉工業団地遺跡群No.３	生産跡	古墳時代 古代 中世以降	水田跡・溝跡 ピット 溝跡 溝跡	土師器破片 土師器高坏 灰釉陶器破片	Hr-FA 層下水田跡 焼夷弾１本検出

朝倉工業団地遺跡群No.３

伊藤忠丸紅特殊鋼株式会社特殊鋼センター
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2012年11月８日　印刷
2012年11月９日　発行

発　行　　前橋市教育委員会
　　前橋市三俣町２丁目10-２
編　集　　スナガ環境測設株式会社
　　前橋市青柳町211番地の１
印　刷　　朝日印刷工業株式会社